

1. 運営会議

委員：揖斐 高	成蹊大学文学部教授
沖森 卓也	立教大学文学部日本文学科教授
雲英 末雄	早稲田大学第一文学部総合人文学科教授
五味 文彦	東京大学大学院人文社会系研究科教授
榊原 悟	群馬県立女子大学文学部美学美術史学科教授
高埜 利彦	学習院大学文学部教授
十川 信介	学習院大学文学部教授
名和 修	(財)陽明文庫文庫長(副議長)
平野由紀子	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科教授
藤井 譲治	東京大学史料編纂所教授
森 正人	熊本大学文学部教授(文学部長)
安藤 正人	アーカイブズ研究系教授
丑木 幸男	アーカイブズ研究系研究主幹
大高 洋司	文学資源研究系教授
鈴木 淳	文学資源研究系研究主幹
高橋 実	アーカイブズ研究系教授
武井 協三	文学形成研究系研究主幹
谷川 恵一	複合領域研究系研究主幹
中村 康夫	文学形成研究系教授
松村 雄二	副館長(議長)
安永 尚志	複合領域研究系教授

平成 17 年度開催状況：

第 1 回 平成 17 年 4 月 26 日(火) 14:00～16:00

場 所 中会議室

議事次第

1. 人間文化研究機構国文学研究資料館名誉教授の選考について
2. 平成 16 年度評価について
 - (1) 自己評価について (2) 外部評価について
3. 平成 17 年度年度計画について
4. 当館の管理運営について
 - (1) 移転について (2) 機構としての活動について ①機構連携研究 ②機構情報資源共有

- 化 ③機構連携展示 (3) 平成 17 年度科学研究費補助金について
(4) 共同利用・共同研究について

第 2 回 平成 18 年 1 月 16 日 (月) 13 : 30 ~ 17 : 00

場 所 中会議室

議事次第

1. 将来計画について
2. 当館の共同研究・共同利用について
3. 国際交流について
4. 平成 17 年度評価について
5. 平成 18 年度年度計画について
6. 当館の管理運営について
 - (1) 移転について (2) 平成 18 年度概算要求について (3) 平成 18 年度科学研究費補助金について (4) 平成 18 年度人事について (5) 機構としての連携活動について ① 機構連携研究 ② 機構情報資源共有化 ③ 機構連携展示
7. 総合研究大学院大学日本文学研究専攻について

2. 主幹・部長会議

委員：伊井 春樹	館長（議長）
松村 雄二	副館長
宮村 貞一	管理部長
鈴木 淳	文学資源研究系研究主幹
武井 協三	文学形成研究系研究主幹
谷川 恵一	複合領域研究系研究主幹
丑木 幸男	アーカイブズ研究系研究主幹
大高 洋司	文学資源研究系教授（調査収集事業部長）
安永 尚志	複合領域研究系教授（電子情報事業部長）
中村 康夫	文学形成研究系教授（普及・連携活動事業部長）
高橋 実	アーカイブズ研究系教授（情報資料サービス事業部副部長）
三上 有丈	管理部総務課長
上原 正宜	管理部財務課長（平成 17 年 12 月 31 日まで）
大西由喜男	管理部財務課長（平成 18 年 1 月 1 日から）
長坂 悦朗	管理部事業課長

平成 17 年度開催状況：

第 1 回 平成 17 年 4 月 14 日（木）10：30～12：20

場 所 中会議室

議事次第

1. 協議事項

- (1) 運営会議の開催について (2) 平成 16 年度評価について (3) 諸規則（案）について (4) 平成 17 年度兼業について (5) 平成 16 年度以降の出版物について (6) 日英短歌ソサエティー美術展への後援について (7) 平成 17 年度客員教員の称号変更について

2. 報告事項

- (1) 機構評価委員会等について (2) 企画連携室会議について (3) 機構会議について (4) 平成 17 年度各種委員会の構成について (5) 連携研究について (6) 情報資源共有化について (7) 立川移転について

3. 連絡事項

- (1) その他

第 2 回 平成 17 年 4 月 28 日（木）10：00～11：40

場 所 中会議室

議事次第

1. 協議事項

- (1) 平成 16 年度の評価について (2) 各種委員会の構成員について (3) 個人情報保護について (4) 平成 17 年度研究機関研究員非常勤研究員・リサーチアシスタント案につ

いて

2. 報告事項

- (1) 企画連携室会議等について (2) 機構会議について (3) 平成 17 年度科学研究費補助金について (4) 出版物販売検討ワーキンググループからの報告について (5) 第 2 回アジア太平洋アーカイブズ学教育国際会議について (6) 外国出張及び海外研修について (7) 研究主幹・事業部長の任期について

3. 連絡事項

- (1) 委員会等の開催について (2) その他 ①名簿について

第 3 回 平成 17 年 5 月 19 日 (木) 10 : 00 ~ 11 : 30

場 所 中会議室

議事次第

1. 協議事項

- (1) 外来研究員の受入について (2) 平成 18 年度概算要求及び平成 17 年度予算執行について

2. 報告事項

- (1) 企画連携室会議について (2) 機構会議について (3) 大学共同利用機関協議会総会 (第 1 回) について (4) 平成 17 年度科学研究費補助金の内定について (5) 平成 18 年度特別研究員 (日本学術振興会) の申請者について (6) 外国出張及び海外研修について

3. 連絡事項

- (1) その他 ①平成 17 年度の予算執行について ② 2 閲覧サービスについて ③刊行物の表紙、奥付の統一について ④委員会の整理統合について

第 4 回 平成 17 年 6 月 30 日 (木) 10 : 00 ~ 11 : 40

場 所 中会議室

議事次第

1. 報告事項

- (1) 機構会議について (2) 経営協議会及び教育研究評議会合同会議について (3) 機構評価委員会について (4) 企画連携室会議等について (5) 公衆電話の廃止について (6) 出版委員会からの報告について (7) 外国出張及び海外研修について (8) 委員会の再編について (9) 開館時間の延長について

2. 連絡事項

- (1) その他 ①日本古典文学会について ②人間文化研究機構を構成する他機関との連携体制について ③機構連携展示について ④出版物販売検討ワーキンググループからの報告について ⑤アーカイブズカレッジの開催について

第 5 回 平成 17 年 6 月 30 日 (木) 10 : 00 ~ 11 : 40

場 所 中会議室

議事次第

1. 報告事項

- (1) 機構会議について (2) 経営協議会及び教育研究評議会合同会議について (3) 機構評価委員会について (4) 企画連携室会議等について (5) 公衆電話の廃止について (6) 出版委員会からの報告について (7) 外国出張及び海外研修について (8) 委員会の再編について (9) 開館時間の延長について

2. 連絡事項

- (1) その他 ①日本古典文学会について ②人間文化研究機構を構成する他機関との連携体制について ③機構連携展示について ④出版物販売検討ワーキンググループからの報告について ⑤アーカイブズカレッジの開催について

第6回 平成17年7月14日(木) 10:00～11:50

場 所 中会議室

議事次第

1. 協議事項

- (1) 規則等の制定及び改正について (2) 平成17年度兼業について

2. 報告事項

- (1) 企画連携室会議について (2) 平成18年度概算要求ヒアリングについて (3) 立川移転について (4) 外国出張及び海外研修について

3. 連絡事項

- (1) その他 ①機構資源共有化について ②平成17年度予算留保分について ③広報活動について ④新委員会組織案について

第7回 平成17年7月28日(木) 14:00～15:50

場 所 中会議室

議事次第

1. 協議事項

- (1) 規則等の制定及び改正について (2) 後援名義依頼について (3) 新委員会組織について

2. 報告事項

- (1) 機構会議について (2) 外部評価委員会について (3) 各年度評価対象となる諸事業について (4) 研究プロジェクト推進の方針について (5) 資料の寄贈並びに寄託申込について (6) 機構研究資源共有化について (7) 外国出張及び海外研修について

3. 連絡事項

- (1) 事務職員採用について

第8回 平成17年8月25日(木) 10:00～11:50

場 所 中会議室

議事次第

1. 協議事項

- (1) 学術交流協定について (2) 委員会の再編について (3) 平成17年度兼業について (4) 奨学寄附金について

2. 報告事項

- (1) 山鹿文庫について (2) 企画連携室会議及び事務連絡協議会合同会議について (3) 機構研究資源共有化について (4) 外国出張及び海外研修について

3. 連絡事項

- (1) 総研大長期履修制度について (2) その他

第9回 平成17年9月15日(木) 10:00～11:55

場 所 中会議室

議事次第

1. 協議事項

- (1) 規則の改正について (2) 後援名義使用許可申請について

2. 報告事項

- (1) 企画連携室会議及び事務連絡協議会合同会議について (2) 機構会議について (3) 教育研究評議会について (4) 平成17年度追加予算配分について (5) 情報システムの開札結果について (6) 総研大大学評価について (7) ソウル研究交流集会について (8) 平成17年度子ども見学デーについて (9) 連携展示について (10) 外国出張及び海外研修について (11) 知的財産委員会について

3. 連絡事項

- (1) 研究戦略委員会について (2) 『リプリント日本近代文学』について (3) 図書館の時間延長及び閲覧カウンターの統一について (4) 『国文学研究資料館ニュース』について

第10回 平成17年9月29日(木) 10:00～11:55

場 所 中会議室

議事次第

1. 報告事項

- (1) 外来研究員の変更について (2) 企画連携室会議について (3) 機構評価委員会について (4) 機構会議について

2. 連絡事項

- (1) 広報紙「国文学研究資料館ニュース」について (2) 「国文学研究資料館研究プロジェクト紹介(仮称)」について (3) 各委員会委員長からの報告について (4) 外国出張について (5) 人事異動について

第11回 平成17年10月27日(木) 10:00～12:30

場 所 中会議室

議事次第

1. 協議事項

- (1) 浙江工商大学との学術交流協定について (2) 立命館大学総合情報センターとの相互協力協定について (3) 熊本大学文学部との連携調査について (4) 連携研究「文化資源の高度活用」研究計画の推薦について (5) 規程の改正について (6) 平成18年度客員教員・研究機関研究員・リサーチアシスタントの採用計画について (7) 人間文化研究機構第5回公開講演会・シンポジウムの日程について

2. 報告事項

- (1) 機構会議について (2) 企画連携室会議及び事務連絡協議会合同会議、企画連携室会議について (3) 事務連絡協議会について (4) 大学共同利用機関協議会総会について (5) 学術交流協定について (6) 平成 18 年度科学研究費補助金について (7) 外国出張及び海外研修について

3. 連絡事項

- (1) 平成 17 年度大学マネジメントセミナーについて (2) 出勤板について (3) 総合研究大学院大学に関する報告について (4) その他

第 12 回 平成 17 年 11 月 10 日 (木) 15 : 00 ~ 17 : 35

場 所 中会議室

議事次第

1. 協議事項

- (1) 「国書総目録」所在・翻刻複製情報のデータベース公開について (2) 閲覧室セルフコピーの導入について

2. 報告事項

- (1) ソウル研究交流集会について (2) 企画連携室会議及び事務連絡協議会合同会議、企画連携室会議について (3) 人間文化研究資源の共有化推進事業経費について (4) 平成 18 年度科学研究費補助金について (5) 外国出張及び海外研修について

3. 連絡事項

- (1) 平成 18 年度館内予算配分スケジュールについて (2) 教員の勤務体制について (3) 人間文化研究機構第 5 回公開講演会・シンポジウムについて (4) 国立歴史民俗博物館・国文学研究資料館共同フォーラムについて (5) 機構研究資源共有化検討委員会について (6) リプリント日本近代文学の刊行について

第 13 回 平成 17 年 11 月 24 日 (木) 10 : 00 ~ 12 : 00

場 所 中会議室

議事次第

1. 協議事項

- (1) 連携研究について (2) 人間文化研究機構第 5 回公開講演会・シンポジウム及び共同フォーラムについて (3) 発明等届出書及び意匠創作届出書について

2. 報告事項

- (1) 企画連携室会議及び事務連絡協議会合同会議について (2) 経営協議会について (3) 外国出張及び海外研修について (4) 展示室の閉室期間の有効利用について

第 14 回 平成 17 年 12 月 8 日 (木) 10 : 00 ~ 12 : 40

場 所 中会議室

議事次第

1. 協議事項

- (1) 学術協定について (2) 平成 17 年度兼業について (3) 平成 18 年度客員教員の採用計画について (4) 平成 18 年度研究機関研究員の採用計画について (5) 外国人研究員について (6) 特定研究員 (外来研究員) の受入申請について (7) 平成 18 年度共

同研究について ①研究プロジェクト「日本古典籍特定コレクションの目録化の研究」の名称及び研究計画の変更について ②研究プロジェクトの共同研究化について ③平成18年度公募型共同研究について (8) 人間文化研究機構第5回講演会・シンポジウムの開催について (9) 研究プロジェクト発表会の開催日の設定について (10) 施設管理規則の改正について

2. 報告事項

(1) 連携研究について (2) 機構会議について (3) 機構評価委員会について (4) 企画連携室会議について (5) 事務連絡協議会について (6) 機構知的財産管理室会議について (7) 「国文学研究資料館の研究活動－共同研究・プロジェクト研究－(仮称)」の刊行について (8) 将来計画委員会について (9) 外国出張及び海外研修について

3. 連絡事項

(1) 平成17年度年末年始について (2) 独立行政法人国立国語研究所の主要な事務及び事業の開発に関する勧告について (3) 当館ホームページのデザインの統一について

第15回 平成17年12月21日(木) 13:30～15:40

場 所 中会議室

議事次第

1. 協議事項

(1) 運営会議の開催について (2) 規則等の制定について (3) デジタル画像サービスについて (4) 同一表紙、同一シリーズの採用について

2. 報告事項

(1) アスベスト調査の結果について (2) 九州大学韓国研究センターからの後援名義使用許可願について (3) 企画連携室会議・事務連絡協議会合同会議について (4) 事務連絡協議会について (5) 外国出張及び海外研修について

第16回 平成18年1月12日(木) 13:00～15:30

場 所 中会議室

議事次第

1. 協議事項

(1) 運営会議の議題について (2) 後援名義使用許可願について

2. 報告事項

(1) 機構会議について (2) 事務連絡協議会について (3) アスベストの除去について (4) 発明等の届出の取扱いについて (5) 外国出張及び海外研修について (6) 館内委員会の構成について

第17回 平成18年1月26日(木) 10:00～12:00

場 所 中会議室

議事次第

1. 協議事項

(1) 平成18年度共同研究(公募)の審査における確認事項に対する回答について (2) 大阪大学大学院文学研究科との研究連携に関する協定等の締結について (3) 外来研究員

の受入について (4)「国文学年鑑」について

2. 報告事項

- (1) 機構会議について (2) 企画連携室会議について (3) 機構評価委員打合せについて
- (4) 連携研究「文化資源の高度活用」の審査結果について (5) 立命館大学総合情報センターとの相互協力協定等の締結について (6) 平成 18 年度日本学術振興会特別研究員の審査結果について (7) 研究プロジェクト研究成果報告書の体裁について (8) 外国出張及び海外研修について (9) その他 ①アスベスト調査について ②消防訓練の実施について

第 18 回 平成 18 年 2 月 16 日 (木) 10 : 00 ~ 11 : 45

場 所 中会議室

議事次第

1. 協議事項

- (1) 平成 18 年度基幹研究について (2) 平成 18 年度機構連携研究計画について (3) イタリア 3 大学等との学術交流協定について (4) 平成 18 年度業務計画配分について (5) 後援名義使用許可願について (6)「国文学年鑑」について

2. 報告事項

- (1) 平成 18 年度年度計画について (2) 企画連携室会議及び事務連絡協議会合同会議について (3) 立川移転 2 機構事務連絡会について (4) 平成 18 年度科学研究費補助金について (5) 平成 17 年度追加予算配分について (6) 平成 17 年度職員研修会の開催について (7) 外国出張及び海外研修について (8) その他 ①機関研究員の公募について ②全国国語国文学会のホームページについて

第 19 回 平成 18 年 3 月 9 日 (木) 10 : 00 ~ 11 : 30

場 所 中会議室

議事次第

1. 協議事項

- (1) 平成 18 年度兼業について (2) 平成 18 年度客員教員に対する客員教授・客員助教授の称号授与について (3) 平成 18 年度研究機関研究員の採用について (4) 平成 18 年度リサーチアシスタントの採用について

2. 報告事項

- (1) 教育研究評議会について (2) 経営協議会について (3) 機構会議について (4) 企画連携室会議及び事務連絡協議会合同会議について (5) 機構評価委員会作業部会について (6) 外国出張及び海外研修について (7) その他 ①長谷家所蔵資料について ②次期電子情報委員会委員について

第 20 回 平成 18 年 3 月 28 日 (火) 10 : 00 ~ 12 : 30

場 所 中会議室

議事次第

1. 協議事項

- (1) 平成 18 年度第 1 回運営会議について (2) 各種委員会規程の改正について (3) 平

成 18 年度兼業について (4) 教員人事について

2. 報告事項

- (1) 企画連携室会議等について (2) 機構評価委員会等について (3) 機構会議について
 (4) 大学共同利用機関協議会総会について (5) 学術交流協定について (6) 平成 18
 年度人事について (7) 外国出張及び海外研修について (8) その他 ①平成 18 年度
 組織について ②助手との懇談会について ③立川移転後の閲覧室運営について ④パリ
 高等研究院からの招聘について

3. 研究系会議

委員：(平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 8 月 31 日)

松村 雄二	副館長
鈴木 淳	文学資源研究系研究主幹
武井 協三	文学形成研究系研究主幹
谷川 恵一	複合領域研究系研究主幹
丑木 幸男	アーカイブズ研究系研究主幹
大高 洋司	文学資源研究系教授
中村 康夫	文学形成研究系教授
安永 尚志	複合領域研究系教授
高橋 実	アーカイブズ研究系教授
三上 有丈	管理部総務課長
上原 正宜	財務課長

(平成 17 年 9 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)

松村 雄二	副館長
鈴木 淳	文学資源研究系研究主幹
武井 協三	文学形成研究系研究主幹
谷川 恵一	複合領域研究系研究主幹
丑木 幸男	アーカイブズ研究系研究主幹
斎藤真麻理	文学資源研究系助教授
加藤 昌嘉	文学形成研究系助教授
原 正一郎	複合領域研究系助教授
渡辺 浩一	アーカイブズ研究系助教授
三上 有丈	管理部総務課長
上原 正宜	管理部財務課長 (平成 17 年 12 月 31 日まで)
大西由喜男	管理部財務課長 (平成 18 年 1 月 1 日から)

平成 17 年度開催状況：

第 1 回 平成 17 年 4 月 19 日 (火) 10 : 30 ~

場 所 中会議室

議事次第

1. 議事

- (1) 平成 17 年度研究プロジェクト（共同研究含む）実施計画について
- (2) 平成 18 年度概算要求について
- (3) 研究プロジェクト発表会（仮称）の在り方について
- (4) 平成 17 年度客員教員の称号変更について
- (5) 外国人研究員（文学資源研究系）について
- (6) 研究助成申請「2005 年度サントリー文化財団」への応募について
- (7) その他

2. 報告事項

- (1) 平成 17 年度科学研究費補助金の内定について
- (2) 共有研究室の設置について
- (3) 国文学研究資料館年報の原稿について
- (4) その他

3. 連絡事項

- (1) 2005 年度大川賞・大川出版賞候補の推薦について
- (2) トヨタ財団 2005（平成 17）年度研究助成応募要項について
- (3) その他

第 2 回 平成 17 年 5 月 19 日（木）13：30～

場 所 中会議室

議事次第

1. 議事

- (1) 平成 17 年度研究プロジェクト（共同研究含む）構成メンバーについて
- (2) 平成 17 年度リサーチ・アシスタントの採用について（採用済）
- (3) 外来研究員の受入について
- (4) 研究支援者（科研費等での雇用）のうち、研究者を雇用する場合の資格等について
- (5) 教員の科学研究費補助金全体に占めるエフォートの割合の目安について
- (6) 教員の海外派遣について
- (7) 研究プロジェクト発表会について
- (8) 研究プロジェクト（共同研究含む）計画書の様式について
- (9) 海外渡航報告書の様式について
- (10) その他

2. 報告事項

- (1) 平成 17 年度科学研究費補助金の内定について
- (2) 平成 17 年度国際学会等派遣事業（日本学術振興会）の申請について
- (3) 平成 17 年度外国人特別研究員（日本学術振興会）の申請について
- (4) 平成 18 年度特別研究員（日本学術振興会）の申請者
- (5) 平成 18 年度特別研究員（日本学術振興会）の申請者について
- (6) その他

第 3 回 平成 17 年 6 月 16 日（木）10：00～

場 所 中会議室

議事次第

1. 議事

- (1) 研究プロジェクトの進捗状況及び平成 17 年度研究プロジェクト（共同研究含む）構成メンバーについて
- (2) 研究プロジェクトの成果の出版物の統一について
- (3) (財)交流協会の日台支援事業について
- ①平成 18 年度日台件研究支援事業募集要綱について
- ②平成 17 年度・平成 18 年度共同研究への経費協力について
- (4) 平成 18 年度の教員の兼業等について
- (5) 平成 18 年度以降の外国人研究員招聘計画について
- (6) 外国出張報告書の様式について
- (7) その他

2. 報告事項

- (1) 平成 18 年度科学研究費補助金の電子申請について (2) 当館受入研究者、総研大学生等が出席可能な研究会、シンポジウム、研究集会の開催情報の提供について (3) 研究プロジェクト発表会について (4) 年報作成について (5) ポート教授（外来研究員）の研究室使用について (6) 研究助成の応募状況と推進について (7) その他

第 4 回 平成 17 年 7 月 21 日（木）15：30～

場 所 中会議室

議事次第

1. 議事

- (1) 平成 17・18 年度文学資源系の外国人研究員について (2) 日本文学資源調査研究プロジェクト (3) 多国間比較史料に関する上海国際研究会計画について (4) 「インド国際日本文学集会」への後援について (5) 転載許可願いについて (6) その他

2. 報告事項

- (1) 平成 17 年度国際学会等派遣事業（日本学術振興会）の採用結果について (2) 平成 17 年度国際会議出席助成（派遣）プログラム（国際交流基金）の申請について (3) その他

3. 連絡事項

- (1) 平成 17 年度歴史学・地理学助成候補者の募集について（福武学術文化振興財団） (2) 二国間交流事業共同研究・セミナー等平成 18 年分の募集について（日本学術振興会） (3) その他

第 5 回 平成 17 年 9 月 12 日（月）13：30～

場 所 中会議室

議事次第

1. 議事

- (1) 研究戦略委員会との関係について (2) 国際交流委員会との関係について (3) 研究プロジェクト全体概要報告書（仮称）について (4) 今後の研究プロジェクト発表会について (5) 転載許可願いについて (6) その他

2. 報告事項

- (1) 研究プロジェクト経費の追加配分について (2) 外部評価報告書について (3) 学術交流協定締結（浙江工商大学）について (4) 奨学寄附金の申し出について (5) 研究助成申請等の採択結果について (6) その他

3. 連絡事項

- (1) 科学研究費補助金説明会（5 機関共催）の開催について (2) 平成 18 年度科学研究費補助金の申請について (3) 2006（平成 18）年度国際学術研究助成の募集（平和中島財団）について (4) 第 1 回博報「ことばと文化・教育」研究助成の募集について (5) その他

第 6 回 平成 17 年 10 月 7 日（金）13：30～

場 所 中会議室

議事次第

1. 議事

- (1) 研究プロジェクト・共同研究紹介（仮称）の刊行について
- (2) 機構の研究支援推進員取扱規程の改正に伴う当館規程の改正（案）について
- (3) 日仏学術交流集会の開催等について
- (4) 外国出張について
- (5) 外来研究員の受入期間の変更について
- (6) 平成 18 年度客員教員・研究機関研究員・R A の採用計画について
- (7) 平成 17 年度研究プロジェクトの予算追加配分について
- (8) 平成 17 年度研究プロジェクト等の予算執行状況について
- (9) その他

第 7 回 平成 17 年 11 月 21 日（月）13：30～

場 所 中会議室

議事次第

1. 議事

- (1) 平成 18 年度研究機関研究員について ①研究機関研究員の公募について ②研究機関研究員の任期延長について
- (2) 平成 18 年度客員教員の採用について
- (3) 平成 18 年度外国人研究員について
- (4) 平成 18 年度に研究プロジェクトから共同研究へ移行する研究課題について
- (5) 特定研究員（外来研究員）受入について
- (6) 平成 17 年度招聘する外国人研究員について
- (7) 平成 19 年度以降の外国人研究員の招聘計画について
- (8) その他

2. 報告事項

- (1) 平成 18 年度館内予算配分にかかる実施計画（予算要求）書の提出について
- (2) 「国文学研究資料館の研究活動－共同研究・プロジェクト研究－」（仮称）の刊行について
- (3) 外部資金の申請について ①S C A T 研究費助成 ②国際交流基金（知的交流会議助成）
- (4) 人間文化研究機構第 5 回公開講演会・シンポジウム及び第 2 回共同フォーラムの開催について
- (5) 人間文化研究機構連携研究「文化資源の高度活用」の研究計画について
- (6) 平成 18 年度科学研究費補助金の申請について
- (7) 平成 17 年度研究プロジェクト経費及び科学研究費補助金の執行状況について
- (8) その他

第 8 回 平成 17 年 12 月 6 日（火）13：00～

場 所 中会議室

議事次第

1. 議事

- (1) 平成 18 年度客員教員の採用計画について
- (2) 平成 18 年度研究機関研究員について ①任期の延長（3 年目）について ②公募について
- (3) 平成 18 年度研究プロジェクトについて ①研究プロジェクト（共同研究）の課題名の変更について ②研究プロジェクトから共同研究へ移行希望の研究課題について
- (4) 外国人研究員の招聘について
- (5) 研究プロジェクト発表会について
- (6) その他

第 9 回 平成 17 年 12 月 21 日（水）10：00～

場 所 中会議室

議事次第

1. 議事

- (1) 平成 18 年度共同研究・プロジェクト研究の研究計画について (2) 平成 18 年度から開始する基幹研究について (3) その他

2. 報告事項

- (1) 平成 17 年度研究プロジェクト経費及び科学研究費補助金執行状況について (2) その他

第 10 回 平成 18 年 1 月 19 日 (木) 10 : 00 ~

場 所 中会議室

議事次第

1. 議事

- (1) 海外における独創的・先端的学術研究実践支援事業について (2) 外来研究員の受入について (3) その他

2. 報告事項

- (1) 連携研究「文化資源の高度活用」の審査結果について (2) 平成 17 年度研究プロジェクト経費及び科学研究費補助金の執行状況について (3) その他

第 11 回 平成 18 年 2 月 15 日 (水) 10 : 00 ~

場 所 中会議室

議事次第

1. 議事

- (1) 平成 18 年度研究機関研究員について (2) 平成 17 年度研究プロジェクト・共同研究実施状況について (3) 平成 18 年度研究プロジェクト・共同研究計画について (4) 平成 18 年度連携研究計画について (5) 平成 18 年度機関研究計画について (6) 平成 18 年度共同研究 (公募型) 計画について (7) 平成 18 年度外国人研究員の共同研究計画について (8) その他

2. 報告事項

- (1) 平成 18 年度科学研究費補助金について (2) 平成 17 年度研究プロジェクト経費及び科学研究費補助金の執行状況について (3) その他

第 12 回 平成 18 年 3 月 8 日 (水) 13 : 30 ~

場 所 中会議室

議事次第

1. 議事

- (1) 平成 17 年度研究機関研究員の研究成果報告等について (2) 平成 17 年度 R A の研究成果報告等について (3) 平成 18 年度研究機関研究員の採用について (4) 平成 18 年度 R A の採用について (5) 平成 18 年度基幹研究計画について (6) その他

2. 報告事項

- (1) 平成 18 年度客員教員等一覧について (2) 平成 17 年度研究プロジェクト・共同研究実施状況について (3) 国文学研究資料館の研究活動について (4) 平成 17 年度研究助成応募状況・結果一覧について (5) 平成 17 年度研究プロジェクト経費及び科学研究費補助金の執行状況について (6) その他

4. 研究連携委員会

委員：（平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 8 月 31 日）

伊井 春樹	館長
松村 雄二	副館長
宮村 貞一	管理部長
鈴木 淳	文学資源研究系研究主幹
武井 協三	文学形成研究系研究主幹
谷川 恵一	複合領域研究系研究主幹
丑木 幸男	アーカイブズ研究系研究主幹
大高 洋司	調査収集事業部長
安永 尚志	電子情報事業部長（日本文学研究専攻長）
中村 康夫	普及・連携活動事業部長
高橋 実	情報資料サービス事業部副部長
三上 有丈	管理部総務課長
上原 正宜	管理部財務課長
長坂 悦朗	管理部事業課長

（平成 17 年 9 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日）

松村 雄二	副館長
大高 洋司	文学資源研究系教授
山崎 誠	文学資源研究系教授
中村 康夫	文学形成研究系教授
野本 忠司	複合領域研究系助教授
青田 寿美	複合領域研究系助教授
青木 睦	アーカイブズ研究系助教授
五島 敏芳	アーカイブズ研究系助手
三上 有丈	管理部総務課長
上原 正宜	管理部財務課長（平成 17 年 12 月 31 日まで）
大西由喜男	管理部財務課長（平成 18 年 1 月 1 日から）
長坂 悦朗	管理部事業課長

5. 共同研究委員会

委員：（平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 8 月 31 日）

松村 雄二	副館長
鈴木 淳	文学資源研究系研究主幹
武井 協三	文学形成研究系研究主幹
谷川 恵一	複合領域研究系研究主幹
丑木 幸男	アーカイブズ研究系研究主幹
井原今朝男	国立歴史民俗博物館歴史資料センター長
中嶋 隆	早稲田大学教育学部教授
中丸 宣明	山梨大学教育人間科学部助教授
三田村雅子	フェリス女学院大学文学部教授
陳 捷	文学資源研究系助教授
相田 満	文学形成研究系助手
青田 寿美	複合領域研究系助教授
安藤 正人	アーカイブズ研究系教授

（平成 17 年 9 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日）

伊井 春樹	館長
松村 雄二	副館長
鈴木 淳	文学資源研究系研究主幹
武井 協三	文学形成研究系研究主幹
谷川 恵一	複合領域研究系研究主幹
丑木 幸男	アーカイブズ研究系研究主幹
井原今朝男	国立歴史民俗博物館歴史資料センター長
中嶋 隆	早稲田大学教育学部教授
中丸 宣明	山梨大学教育人間科学部助教授
三田村雅子	フェリス女学院大学文学部教授
陳 捷	文学資源研究系助教授

平成 17 年度開催状況：

第 2 回 平成 17 年 11 月 25 日（金）14：00～

場 所 中会議室

議事次第

1. 平成 17 年度共同研究実施状況について
2. 平成 17 年度外国人研究員の共同研究実施計画について
3. 平成 18 年度公募型共同研究の採択について
4. 研究プロジェクトの共同研究化について
5. 基幹共同研究について
6. その他

第3回 平成18年2月28日(火) 10:30～

場所 中会議室

議事次第

1. 協議事項

- (1) 平成17年度研究プロジェクト・共同研究実施状況について (2) 平成17年度公募型共同研究中間審査について (3) 平成18年度プロジェクト研究について (4) 平成18年度公募型共同研究について (5) 平成18年度外国人研究員の共同研究について (6) その他

2. 報告事項

- (1) 平成18年度から開始する基幹研究について (2) その他

6. 大学院教育委員会

委員：(平成17年4月1日～平成17年8月31日)

伊井 春樹	館長
松村 雄二	副館長
宮村 貞一	管理部長
鈴木 淳	文学資源研究系研究主幹
武井 協三	文学形成研究系研究主幹
谷川 恵一	複合領域研究系研究主幹
丑木 幸男	アーカイブズ研究系研究主幹
安永 尚志	複合領域研究系教授(総合研究大学院大学日本文学研究専攻長)
田淵句美子	文学資源研究系教授
山下 則子	文学形成研究系教授
原 正一郎	複合領域研究系助教授
大友 一雄	アーカイブズ研究系教授
三上 有丈	管理部総務課長

(平成17年9月1日～平成18年3月31日)

松村 雄二	副館長
丑木 幸男	アーカイブズ研究系研究主幹
安永 尚志	複合領域研究系教授(総合研究大学院大学日本文学研究専攻長)
小川 剛生	文学資源研究系助教授
伊藤 鉄也	文学形成研究系助教授
落合 博志	文学形成研究系助教授
加藤 昌嘉	文学形成研究系助教授
安藤 正人	アーカイブズ研究系教授
三上 有丈	管理部総務課長

平成17年度開催状況：

第1回 平成17年4月21日(木) 13:30～

場 所 中会議室

議事次第

1. 平成16年度特別共同利用研究員の受入実績について
2. 平成17年度国文学研究資料館特別共同利用研究員の受入について
3. 平成17年度国文学研究資料館特別共同利用研究員オリエンテーションについて
4. その他

第2回 平成17年7月28日(木) 15:30～

場 所 中会議室

議事次第

1. 国文学研究資料館特別共同利用研究員受入規程改正について
2. 平成18年度特別共同利用研究員の募集について
3. その他

第3回 平成17年12月22日(木) 10:30～

場 所 中会議室

議事次第

1. 議事
(1) 九州大学との連携講座の設置について (2) 特別共同利用研究員の研究課題変更について
(3) その他
2. 事務連絡
(1) 平成18年度人間文化研究機構国文学研究資料館特別共同利用研究員の募集について

第4回 平成18年1月27日(金) 13:30～

場 所 大会議室A

議事次第

1. 平成17年度研究指導報告書について
2. 平成17年度研究報告書・研究報告について
3. 平成17年度研究指導修了通知書・研究修了証明書(案)について
4. その他

7. 情報事業センター会議

委員：(平成17年4月1日～平成17年8月31日)

松村 雄二	副館長(情報事業センター長)
大高 洋司	文学資源研究系教授(調査収集事業部長)
田淵句美子	文学資源研究系教授(調査収集事業部副部長)
安永 尚志	複合領域研究系教授(電子情報事業部長)
原 正一郎	複合領域研究系助教授(電子情報事業部副部長)

中村 康夫	文学形成研究系教授（普及・連携活動事業部長）
武井 協三	文学形成研究系教授（普及・連携活動事業部副部長）
鈴木 淳	文学資源研究系教授（情報資料サービス事業部長）
高橋 実	アーカイブズ研究系教授（情報資料サービス事業部副部長）
長坂 悦朗	管理部事業課長

（平成 17 年 9 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日）

松村 雄二	副館長（情報事業センター長）
大高 洋司	文学資源研究系教授（調査収集事業部長）
安永 尚志	複合領域研究系教授（電子情報事業部長）
中村 康夫	文学形成研究系教授（普及・連携活動事業部長）
鈴木 淳	文学資源研究系教授（情報資料サービス事業部長）
長坂 悦朗	管理部事業課長

平成 17 年度開催状況：

第 1 回 平成 17 年 7 月 12 日（火）10：00～11：45

場 所 中会議室

議事次第

1. 規則等の制定について
2. データベースの受入及び公開について
3. 毎日新聞社所蔵新屋文庫閲覧利用申請について
4. データベース窓口システムの開始について
5. 普及・連携活動事業部年間行事予定
6. 図書館利用規程の改正について
7. 国立大学図書館協会総会報告
8. メール講習会について

第 2 回 平成 17 年 9 月 13 日（火）15：30～17：15

場 所 中会議室

議事次第

1. 規則等の制定について
2. デジタル画像サービスのワーキンググループについて
3. 連携展示について
4. 第 7 期情報システムについて
5. データベースの名称について
6. 毎日新聞社所蔵新屋文庫閲覧利用申請について

8. 調査収集委員会

委員：（平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 8 月 31 日）

松村 雄二	副館長（情報事業センター長）
大高 洋司	文学資源研究系教授（調査収集事業部長）
田淵句美子	文学資源研究系教授（調査収集事業部副部長）
大谷 俊太	奈良女子大学大学院人間文化研究科助教授
大取 一馬	龍谷大学文学部教授
妹尾 好信	広島大学大学院文学研究科助教授
徳田 和夫	学習院女子大学国際文化交流学部教授
中野 等	九州大学大学院比較社会文化研究院助教授
長島 弘明	東京大学大学院人文社会系研究科教授
山田 俊治	横浜市立大学国際文化学部教授
山下 則子	文学形成研究系教授（調査収集事業部）
落合 博志	文学形成研究系助教授（調査収集事業部）
谷川 恵一	複合領域研究系教授（調査収集事業部）
青木 睦	アーカイブズ研究系助教授（調査収集事業部）

（平成 17 年 9 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日）

松村 雄二	副館長（情報事業センター長）
大高 洋司	文学資源研究系教授（調査収集事業部長）
鈴木 淳	文学資源研究系教授（情報資料サービス事業部長）
田淵句美子	文学資源研究系教授（調査収集事業部副部長）
山下 則子	文学形成研究系教授（調査収集事業部）
谷川 恵一	複合領域研究系教授（調査収集事業部）
小川 剛生	文学資源研究系助教授（調査収集事業部）
落合 博志	文学形成研究系助教授（調査収集事業部）
加藤 昌嘉	文学形成研究系助教授（調査収集事業部）
青木 睦	アーカイブズ研究系助教授（調査収集事業部）
渡辺 浩一	アーカイブズ研究系助教授（調査収集事業部）

平成 17 年度委員会開催状況

第 1 回 平成 17 年 5 月 12 日（木）14：00～17：05

場 所 大会議室B

議事次第

1. 平成 16 年度「調査」・「収集」結果について
2. 平成 17 年度「調査」・「収集」計画について
3. 今後の調査・収集の見直しについて

第 2 回 平成 18 年 3 月 7 日（火）14：00～16：40

場 所 大会議室B

議事次第

1. 平成 17 年度調査収集事業について
2. 平成 17 年度調査収集事業の評価について
3. 平成 18 年度調査収集計画について
4. 基幹研究について
5. その他

9. 調査収集計画委員会

委員：松村 雄二	副館長
高 洋司	文学資源研究系教授（調査収集事業部長）
田淵句美子	文学資源研究系教授（調査収集事業部副部長）
山崎 誠	文学資源研究系教授（調査収集事業部）
小川 剛生	文学資源研究系助教授（調査収集事業部）
井田 太郎	文学資源研究系助手（調査収集事業部）
落合 博志	文学形成研究系助教授（調査収集事業部）
谷川 恵一	複合領域研究系教授（調査収集事業部）
青田 寿美	複合領域研究系助教授（調査収集事業部）
木戸 雄一	複合領域研究系助手（調査収集事業部）
大友 一雄	アーカイブズ研究系教授（調査収集事業部）
三上 有丈	管理部総務課長
上原 正直	管理部財務課長（平成 17 年 12 月 31 日まで）
大西由喜男	管理部財務課長（平成 18 年 1 月 1 日から）
長坂 悦朗	管理部事業課長

平成 17 年度開催状況：

第 1 回 平成 17 年 11 月 14 日（月）13：30～14：50

場 所 中会議室

議事次第

1. 館長挨拶
2. 委員長選出
3. 外部委員会（調査収集委員会）委員選出
4. 調査収集計画委員会規程について

第 2 回 平成 17 年 12 月 15 日（木）13：30～15：00

場 所 大会議室A

議事次第

1. 報告事項
(1) 日本文学資源関係基幹研究について

2. 議題

- (1) 平成 18・19 年度調査収集委員会の館内委員について (2) 平成 18 年度以降の調査収集計画について

第 3 回 平成 18 年 3 月 2 日 (木) 13 : 30 ~ 14 : 55

場 所 中会議室

議事次第

1. 報告事項

- (1) 「平成 17 年度調査収集事業部自己点検・評価報告書」(案) について (2) 平成 18 年度「調査」・「収集」計画について

2. 議題

- (1) 調査収集委員会委員について (2) 平成 18 年度以降の「調査」・「収集」における予算配分について

10. 電子情報委員会

委員：(平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 8 月 31 日)

松村 雄二	副館長 (情報事業センター長)
安永 尚志	複合領域研究系教授 (電子情報事業部長)
原 正一郎	複合領域研究系助教授 (電子情報事業部副部長)
石上 英一	東京大学史料編纂所教授
石塚 英弘	筑波大学大学院図書館情報メディア研究科教授
内田 保廣	共立女子大学文芸学部教授
小島 潔	岩波書店編集部長
丸山 勝巳	国立情報学研究所ソフトウェア研究系研究主幹
マイケル・ワトソン	明治学院大学国際学部教授
山下 則子	文学形成研究系教授 (電子情報事業部)
谷川 恵一	複合領域研究系教授 (電子情報事業部)
大友 一雄	アーカイブズ研究系教授 (電子情報事業部)

(平成 17 年 9 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)

石上 英一	東京大学史料編纂所教授
石塚 英弘	筑波大学大学院図書館情報メディア研究科教授
内田 保廣	共立女子大学文芸学部教授
小島 潔	岩波書店編集部長
丸山 勝巳	国立情報学研究所ソフトウェア研究系研究主幹
マイケル・ワトソン	明治学院大学国際学部教授
安藤 正人	アーカイブズ研究系教授 (電子情報事業部)
高橋 実	アーカイブズ研究系教授 (電子情報事業部)
松村 雄二	副館長 (情報事業センター長)

中村 康夫	文学形成研究系教授（電子情報事業部）
安永 尚志	複合領域研究系教授（電子情報事業部長）
野本 忠司	複合領域研究系助教授（電子情報事業部）
原 正一郎	複合領域研究系助教授（電子情報事業部副部長）
青田 寿美	複合領域研究系助教授（電子情報事業部）
伊藤 鉄也	文学形成研究系助教授（電子情報事業部）
山田 哲好	アーカイブズ研究系助教授（電子情報事業部）

平成 17 年度開催状況：

第 1 回 平成 17 年 6 月 1 日（水）15：00～

場 所 中会議室

議事次第

1. 協議事項

- (1) 経過報告 (2) 仕様の説明 (3) 審議（仕様書、総合評価基準）

第 2 回 平成 18 年 3 月 3 日（金）15：00～

場 所 中会議室

議事次第

1. 協議事項

- (1) 経過報告（情報システム入替について） (2) 審議（17 事業報告及びその自己評価について） (3) その他

11. 普及・連携事業委員会

委員：松村 雄二	副館長（情報事業センター長）
中村 康夫	文学形成研究系教授（普及・連携活動事業部長）
武井 協三	文学形成研究系教授（普及・連携活動事業部副部長）
浅野 秀剛	千葉市美術館学芸課長
佐伯 眞一	青山学院大学文学部教授
竹本 幹夫	早稲田大学文学部教授
別府 節子	出光美術館学芸員
宮崎 康充	宮内庁書陵部図書調査官
安藤 正人	アーカイブズ研究系教授（普及・連携活動事業部）
加藤 昌嘉	文学形成研究系助教授（普及・連携活動事業部）

平成 17 年度開催状況：

第 1 回 平成 18 年 1 月 13 日（金）10：00～11：30

場 所 中会議室

議事次第

1. 平成 17 年度普及・連携活動事業の評価について

2. 平成 18 年度普及・連携活動の事業計画について

12. 国際日本文学研究集会委員会

委員：松村 雄二	副館長（情報事業センター長）
中村 康夫	文学形成研究系教授（普及・連携活動事業部長）
神野藤昭夫	跡見学園女子大学文学部教授
小峰 和明	立教大学文学部教授
関 礼子	亜細亜大学経済学部教授
坪井 秀人	名古屋大学大学院文学研究科教授
ロバート・キャンベル	東京大学大学院総合文化研究科助教授
武井 協三	文学形成研究系教授（普及・連携活動事業部副部長）
陳 捷	文学形成研究系助教授（普及・連携活動事業部）

平成 17 年度開催状況：

第 1 回 平成 17 年 7 月 29 日（金）14：00～17：15

場 所 中会議室

議事次第

1. 第 29 回国際日本文学研究集会講演者の決定について
2. 第 29 回国際日本文学研究集会招待発表者の決定について
3. 第 29 回国際日本文学研究集会研究発表者の選考について
4. 第 29 回国際日本文学研究集会ポスターセッション発表者の選考について
5. 第 29 回国際日本文学研究集会プログラムの決定について
6. その他

第 2 回 平成 17 年 11 月 17 日（木）10：30～12：10

場 所 中会議室

議事次第

1. 第 29 回国際日本文学研究集会の準備状況について
2. 第 29 回国際日本文学研究集会運営の細部打ち合わせについて
3. 第 30 回国際日本文学研究集会の実施について
4. 広報の仕方について

13. 図書館事業委員会

委員：松村 雄二	副館長（情報事業センター長）
鈴木 淳	文学資源研究系教授（情報資料サービス事業部長）
高橋 実	アーカイブズ研究系教授（情報資料サービス事業部副部長）
市古 夏生	お茶の水女子大学理事

折田 洋晴	国立国会図書館主題情報部古典籍課長
笹川 郁夫	東京大学附属図書館事務部長
根岸 正光	国立情報学研究所学術研究情報研究系教授
宮崎 勝美	東京大学史料編纂所近世史料部教授
大高 洋司	文学資源研究系教授
小川 剛生	文学資源研究系助教授
落合 博志	文学形成研究系助教授
原 正一郎	複合領域研究系助教授
大友 一雄	アーカイブズ研究系教授

平成 17 年度開催状況：

第 1 回 平成 18 年 3 月 20 日（水）14：00～16：05

場 所 中会議室

議事次第

1. 協議事項

- (1) 平成 17 年度図書館事業報告・評価について (2) 平成 17 年度古典籍総合目録事業報告について (3) 平成 18 年度図書館事業計画について (4) 平成 18 年度古典籍総合目録事業計画について

2. その他

- (1) 立川移転後の計画について

14. 電子図書館委員会

委員：山崎 誠	文学資源研究系教授
鈴木 淳	文学資源研究系教授
大高 洋司	文学資源研究系教授
田淵句美子	文学資源研究系教授
陳 捷	文学資源研究系助教授
斎藤真麻理	文学資源研究系助教授
山下 則子	文学形成研究系教授
伊藤 鉄也	文学形成研究系助教授
相田 満	文学形成研究系助手
原 正一郎	複合領域研究系助教授
野本 忠司	複合領域研究系助教授
高橋 実	アーカイブズ研究系教授
安藤 正人	アーカイブズ研究系教授
山田 哲好	アーカイブズ研究系助教授
三上 有丈	管理部総務課長
上原 正宜	管理部財務課長（平成 17 年 12 月 31 日まで）
大西由喜男	管理部財務課長（平成 18 年 1 月 1 日から）

長坂 悦朗 管理部事業課長

平成 17 年度開催状況：

第 1 回 平成 17 年 9 月 8 日（木）13：30～

場 所 中会議室

議事次第

1. 本委員会について
2. 構想について
3. 既設委員会について
4. 名称について

第 2 回 平成 17 年 11 月 1 日（火）10：00～

場 所 中会議室

議事次第

1. 議事
 - (1) 委員会規程について
 - (2) 資料撮影・掲載関係規程類について
 - (3) 『国書総目録』所在・翻刻複製情報のデータベース公開について
 - (4) その他
2. 報告
 - (1) 図書資料委員会
 - (2) デジタル画像サービスワーキンググループ
 - (3) 第 7 期情報システム導入手続きの経緯及び体制について

※第 3 回から、館内委員会の再編に伴い、情報図書館委員会に名称を変更

第 3 回 平成 17 年 12 月 9 日（金）13：30～15：40

場 所 大会議室 A

議事次第

1. 審議事項
 - (1) 委員会規程について
 - (2) 資料撮影・掲載関係規程類について
2. 報告事項
 - (1) 図書資料委員会
 - (2) デジタル画像サービスワーキンググループ

第 4 回 平成 18 年 3 月 1 日（水）13：30～

場 所 中会議室

議事次第

1. 平成 17 年度情報図書館関係事業予算報告
2. 電子情報事業部平成 17 年度事業報告・評価案ならびに平成 18 年度事業計画案について
3. 平成 17 年度図書館事業報告・評価案について
4. 平成 18 年度図書館事業計画案について
5. 第 6 回図書資料委員会報告
6. 歴史資料閲覧室関係図書資料組織化の現状と今後の計画について
7. 閲覧室の統合について
8. その他

15. 図書資料委員会

委員：鈴木 淳	文学資源研究系教授（情報資料サービス事業部長）
高橋 実	アーカイブズ研究系教授（情報資料サービス事業部副部長）
井田 太郎	文学資源研究系助手
落合 博志	文学形成研究系助教授
加藤 昌嘉	文学形成研究系助教授
青田 寿美	複合領域研究系助教授
木戸 雄一	複合領域研究系助手
山田 哲好	アーカイブズ研究系助教授
三上 有丈	管理部総務課長
上原 正宜	管理部財務課長（平成 17 年 12 月 31 日まで）
大西由喜男	管理部財務課長（平成 18 年 1 月 1 日から）
長坂 悦朗	管理部事業課長

平成 17 年度開催状況：

第 1 回 平成 17 年 4 月 28 日（木）15：30～17：10

場 所 中会議室

議事次第

1. 議題

- (1) 平成 17 年度図書購入計画について ①原本補修予算の振替について ②図書購入費の内訳予算枠について ③近代研究書の選定について (2) 年報「新収和古書抄」書目選定について (3) 特別コレクションの指定について（後藤重郎旧蔵書追加）

2. 報告

- (1) マイクロ資料サービス区分の変更について (2) 平成 16 年度資料サービス統計報告

第 2 回 平成 17 年 6 月 14 日（火）10：00～11：40

場 所 中会議室

議事次第

1. 議題

- (1) 特別コレクション「後藤重郎旧蔵書」の名称について (2) 資料の寄贈について (3) 図書の選定について (4) その他 ①原本の特定作品・分野に重点を置く収集について ②図書選定関係情報の館内周知 ③年報「新収和古書抄」

2. 報告

- (1) 歴史資料閲覧室図書・製本雑誌目録データベースの館内公開について

第 3 回 平成 17 年 7 月 13 日（水）10：00～11：50

場 所 中会議室

議事次第

1. 議題

- (1) 閲覧時間延長等にもなう規程の改正について (2) 立川閲覧室・地下書庫のレイアウトについて (3) 資料の寄贈ならびに寄託申込について (4) 図書の選定について

2. 報告

- (1) 資料の燻蒸について (2) その他

第4回 平成17年9月30日(金) 11:00～12:00

場 所 中会議室

議事次第

1. 資料の寄託ならびに寄贈について
2. 図書資料購入費の追加配分にもなう図書購入計画について
3. 図書受入状況一覧の館内公開について
4. 図書の選定について
5. その他

第5回 平成17年11月15日(火) 10:00～11:50

場 所 中会議室

議事次第

1. 貴重書の指定について
2. 図書の選定について (1) 原本 (2) 研究書等

第6回 平成18年1月27日(金) 10:30～12:00

場 所 中会議室

議事次第

1. 委員会規程運用の申合せについて
2. 立川閲覧室のブックディテクション(貸出手続き忘れ防止)装置設置について
3. 図書の寄贈ならびに寄託(追加)について
4. 図書の選定について

16. 出版委員会

委員：(平成17年4月1日～平成17年8月31日)

松村 雄二	副館長(情報事業センター長)
大高 洋司	文学資源研究系教授(調査収集事業部長)
安永 尚志	複合領域研究系教授(電子情報事業部長)
中村 康夫	文学形成研究系教授(普及・連携活動事業部長)
鈴木 淳	文学資源研究系教授(情報資料サービス事業部長)
小川 剛生	文学資源研究系助教授
加藤 昌嘉	文学形成研究系助教授
谷川 恵一	複合領域研究系教授
渡辺 浩一	アーカイブズ研究系助教授

三上 有丈 管理部総務課長
上原 正宜 管理部財務課長
長坂 悦朗 管理部事業課長

(平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 8 月 31 日)

松村 雄二 副館長 (情報事業センター長)
武井 協三 文学形成研究系研究主幹
井田 太郎 文学資源研究系助手
加藤 昌嘉 文学形成研究系助教授
相田 満 文学形成研究系助手
大友 一雄 アーカイブズ研究系教授
三上 有丈 管理部総務課長
上原 正宜 管理部財務課長 (平成 17 年 12 月 31 日まで)
大西由喜男 管理部財務課長 (平成 18 年 1 月 1 日から)
長坂 悦朗 管理部事業課長

平成 17 年度開催状況：

第 1 回 平成 17 年 6 月 7 日 (火) 10 : 30 ~ 12 : 20

場 所 中会議室

議事次第

1. 平成 17 年度出版計画について
2. 出版物の奥付等の統一について
3. 今後の影印叢書の刊行について

第 2 回 平成 17 年 6 月 28 日 (火) 10 : 20 ~ 11 : 30

場 所 中会議室

議事次第

1. 研究系出版物の刊行形態について
2. 今後の影印叢書の刊行について
3. ホームページ上の出版物案内について
4. リプリント近代文学について
5. 国文学研究資料館紀要アーカイブズ研究篇第 1 号について
6. 出版物販売WGからの報告

第 3 回 平成 17 年 9 月 5 日 (月) 16 : 00 ~ 17 : 00

場 所 中会議室

議事次第

1. 委員会の目的について
2. 任期について
3. 主な仕事
4. 委員長について

5. 構成員について
6. 紀要の作成について
7. 委員会の事務について

第4回 平成17年12月8日(木) 14:00～15:10

場 所 中会議室

議事次第

1. 協議事項
(1) 平成17年度出版物の刊行形態について
2. 報告事項
(1) 刊行を予定している出版物について

第5回 平成18年1月5日(木) 10:30～12:15

場 所 中会議室

議事次第

1. 平成17年度出版物の刊行形態について

第6回 平成18年1月17日(火) 10:30～11:50

場 所 中会議室

議事次第

1. 協議事項
(1) 平成17年度研究成果報告書の刊行形態について
2. 報告事項
(1) 表紙デザインについて

第7回 平成18年2月2日(木) 10:30～11:45

場 所 中会議室

議事次第

1. 表紙デザインについて

第8回 平成18年2月21日(火) 13:00～13:50

場 所 中会議室

議事次第

1. 平成17年度研究成果報告について
2. 善福寺善本叢刊について
3. 国文学年鑑について

17. 紀要作成委員会

委員：(平成17年4月1日～平成17年8月31日)

斎藤真麻理 文学資源研究系助教授

江戸 英雄	文学形成研究系助手
木戸 雄一	複合領域研究系助手
加藤 聖文	アーカイブズ研究系助手

(平成 17 年 9 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)

山崎 誠	文学資源研究系教授
久保木秀夫	文学資源研究系助手
野本 忠司	複合領域研究系助教授
大友 一雄	アーカイブズ研究系教授
渡辺 浩一	アーカイブズ研究系助教授

平成 17 年度開催状況：

第 1 回 平成 17 年 5 月 31 日 (火) 16 : 00 ~ 17 : 15

場 所 共同研究室

議事次第

1. 平成 17 年度紀要作成委員会委員長選出について
2. 平成 16 年度からの引き継ぎ事項について
3. 出版計画表について
4. 送付作業の担当について

第 2 回 平成 17 年 6 月 28 日 (火) 16 : 00 ~ 17 : 20

場 所 共同研究室

議事次第

1. エントリー状況について
2. 紀要販売について
3. その他

※第 3 回から、館内委員会の再編に伴い、紀要委員会に名称を変更。

第 3 回 平成 17 年 10 月 11 日 (火) 16 : 20 ~ 17 : 00

場 所 共同研究室

議事次第

1. 前委員会からの引継
2. 国文学研究資料館紀要第 32 号の作成予定

18. 知的財産委員会

委員：(平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 8 月 31 日)

伊井 春樹	館長
松村 雄二	副館長
宮村 貞一	管理部長

鈴木 淳	文学資源研究系教授
武井 協三	文学形成研究系研究主幹
谷川 恵一	複合領域研究系研究主幹
丑木 幸男	アーカイブズ研究系研究主幹
大高 洋司	文学資源研究系教授
安永 尚志	複合領域研究系教授
中村 康夫	文学形成研究系教授
小川 剛生	文学資源研究系助教授
山田 哲好	アーカイブズ研究系助教授
三上 有丈	管理部総務課長
上原 正宜	管理部財務課長
長坂 悦朗	管理部事業課長

(平成 17 年 9 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)

宮村 貞一	管理部長
山崎 誠	文学資源研究系教授
中村 康夫	文学形成研究系教授
伊藤 鉄也	文学形成研究系助教授
原 正一郎	複合領域研究系助教授
安藤 正人	アーカイブズ研究系教授
加藤 聖文	アーカイブズ研究系助手
三上 有丈	管理部総務課長
上原 正宜	管理部財務課長 (平成 17 年 12 月 31 日まで)
大西由喜男	管理部財務課長 (平成 18 年 1 月 1 日から)
長坂 悦朗	管理部事業課長

平成 17 年度開催状況：

第 1 回 平成 17 年 9 月 14 日 (水) 13 : 00 ~

場 所 中会議室

議事次第

1. 議事

- (1) 特許法第 30 条第 1 項等に基づく特許庁長官が指定する学術団体に関する国立大学法人
法等の施行に伴う取扱について (2) 発明等の届出について (3) その他

2. 報告事項

- (1) 転載許可願について

第 2 回 平成 17 年 11 月 21 日 (月) 17 : 00 ~

場 所 中会議室

議事次第

1. 翻訳出版の許可について
2. 発明等の届出について

3. その他

第3回 平成17年12月13日(火) 10:30～

場 所 中会議室

議事次第

1. 発明等の届出について
2. 人間文化研究機構著作物取扱規程(案)について
3. マレガ文庫所蔵日本書籍目録について
4. 論文の一部転載許可について
5. その他

第4回 平成17年12月26日(月) 10:30～

場 所 中会議室

議事次第

1. 発明等の届出について
2. 人間文化研究機構著作物取扱規程(案)について
3. マレガ文庫所蔵日本書籍目録について
4. その他

第5回 平成18年2月3日(金) 13:30～

場 所 中会議室

議事次第

1. 議事
 - (1) マレガ文庫所蔵日本書籍目録について
 - (2) その他
2. 報告事項
 - (1) 翻訳・転載許可について
 - (2) その他

19. 外部評価委員会

委員：黒田日出男	立正大学文学部教授
小島 孝之	東京大学大学院人文社会系研究科教授
平岡 敏夫	筑波大学名誉教授
ハルトムート・ローゲンンド	フランス国立高等研究院教授(城西国際大学人文学部客員教授)

平成17年度開催状況：

第1回 平成17年4月19日(火) 14:00～15:30

場 所 中会議室

議事次第

1. 平成 16 年度評価について
2. 平成 17 年度年度計画について

第 2 回 平成 17 年 7 月 21 日 (木) 13 : 30 ~ 14 : 40

場 所 中会議室

議事次第

1. 平成 16 年度外部評価報告書について

20. 自己評価委員会 (平成 17 年 9 月から評価委員会に改正)

委員：(平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 8 月 31 日)

松村 雄二	副館長
宮村 貞一	管理部長
鈴木 淳	文学資源研究系研究主幹
武井 協三	文学形成研究系研究主幹
谷川 恵一	複合領域研究系研究主幹
丑木 幸男	アーカイブズ研究系研究主幹
大高 洋司	文学資源研究系教授
安永 尚志	複合領域研究系教授
中村 康夫	文学形成研究系教授
高橋 実	アーカイブズ研究系教授
三上 有丈	管理部総務課長
上原 正宜	管理部財務課長
長坂 悦朗	管理部事業課長

(平成 17 年 9 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)

松村 雄二	副館長
鈴木 淳	文学資源研究系研究主幹
武井 協三	文学形成研究系研究主幹
丑木 幸男	アーカイブズ研究系研究主幹
中村 康夫	普及・連携活動事業部長
山下 則子	文学形成研究系教授
落合 博志	文学形成研究系助教授
原 正一郎	複合領域研究系助教授
木戸 雄一	複合領域研究系助手
大友 一雄	アーカイブズ研究系教授
山田 哲好	アーカイブズ研究系助教授
三上 有丈	管理部総務課長
上原 正宜	管理部財務課長 (平成 17 年 12 月 31 日まで)
大西由喜男	管理部財務課長 (平成 18 年 1 月 1 日から)

長坂 悦朗 管理部事業課長

平成 17 年度開催状況：

第 1 回 平成 17 年 10 月 14 日（金）13：00～14：30

場 所 中会議室

議事次第

1. 委員長の選出
2. 平成 16 年度に係る業務の実績に関する評価について
3. 今後の検討事項について

第 2 回 平成 17 年 11 月 25 日（金）10：30～11：45

場 所 中会議室

議事次第

1. 国立大学評価委員会の評価結果における指摘事項及びその対応策（案）について
2. 大学情報データベースについて
3. 今後の検討事項について

第 3 回 平成 17 年 12 月 27 日（火）13：30～16：00

場 所 中会議室

議事次第

1. 平成 17 年度自己評価について
2. 外部委員会への付託事項について
3. 平成 17 年度年報について
4. 大学情報データベースについて
5. 平成 18 年度年度計画について

第 4 回 平成 18 年 1 月 13 日（金）13：30～15：30

場 所 中会議室

議事次第

1. 平成 18 年度年度計画について
2. 平成 17 年度評価について

第 5 回 平成 18 年 3 月 30 日（金）13：30～15：30

場 所 中会議室

議事次第

1. 平成 17 年度評価について

21. 広報委員会

委員：（平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 8 月 31 日）

入口 敦志	文学資源研究系助手
伊藤 鉄也	文学形成研究系助教授
北村 啓子	複合領域研究系助手
五島 敏芳	アーカイブズ研究系助手
井田 太郎	文学資源研究系助手
原 正一郎	複合領域研究系助教授
加藤 昌嘉	文学形成研究系助教授
山田 直子	文学資源研究系助手
三上 有丈	管理部総務課長
上原 正宜	管理部財務課長
長坂 悦朗	管理部事業課長

（平成 17 年 9 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日）

田淵句美子	文学資源研究系教授
斎藤真麻理	文学資源研究系助教授
落合 博志	文学形成研究系助教授
相田 満	文学形成研究系助手
原 正一郎	複合領域研究系助教授
野本 忠司	複合領域研究系助教授
青田 寿美	複合領域研究系助教授
北村 啓子	複合領域研究系助手
山田 哲好	アーカイブズ研究系助教授
青木 睦	アーカイブズ研究系助教授
前川佳遠理	アーカイブズ研究系助手
三上 有丈	管理部総務課長
上原 正宜	管理部財務課長（平成 17 年 12 月 31 日まで）
大西由喜男	管理部財務課長（平成 18 年 1 月 1 日から）
長坂 悦朗	管理部事業課長

平成 17 年度開催状況：

第 1 回 平成 17 年 9 月 28 日（水）13：30～15：00

場 所 中会議室

議事次第

1. 委員長の選出について
2. 「国文学研究資料館ニュース」について

第 2 回 平成 17 年 10 月 5 日（水）13：30～15：00

場 所 中会議室

議事次第

1. 「国文学研究資料館ニュース」について

第3回 平成17年11月2日(水) 13:30～15:30

場 所 大会議室A

議事次第

1. 「国文学研究資料館ニュース」No.2について
2. 当館ホームページ「電子資料館」掲載のデータベースの順番について
3. 当館ホームページの各ページのデザイン統一及びカテゴリについて

第4回 平成17年12月7日(水) 13:30～15:10

場 所 中会議室

議事次第

1. 「国文学研究資料館ニュース」No.2について
2. 当館ホームページの各ページのデザイン統一について
3. 機構本部ホームページに掲載する各機関の画像について

第5回 平成18年2月8日(水) 13:30～16:00

場 所 中会議室

議事次第

1. 「国文学研究資料館ニュース」No.3について
2. 学会のホームページについて
3. 当館ホームページのバナーについて

第6回 平成18年3月17日(金) 10:30～11:45

場 所 中会議室

議事次第

1. 「国文学研究資料館ニュース」No.3について
2. 平成18年度概要について

22. ホームページ委員会

委員：久保木秀夫	文学資源研究系助手
伊藤 鉄也	文学形成研究系助教授
野本 忠司	複合領域研究系助教授
五島 敏芳	アーカイブズ研究系助手
陳 捷	調査収集事業部助教授
原 正一郎	電子情報事業部助教授
北村 啓子	普及・連携活動事業部助手

山田 直子	情報資料サービス事業部助手
三上 有丈	管理部総務課長
上原 正宜	管理部財務課長
長坂 悦朗	管理部事業課長

平成 17 年度開催状況：

第 1 回 平成 17 年 6 月 15 日（水）13：30～15：00

場 所 中会議室

議事次第

1. 著作権関係について
2. 学会情報全国大学国語国文学会のホームページのホスティングについて
3. 個人（研究者ホームページ）の公開について
4. 総合窓口システムについて
5. アーカイブズ関係資料のホームページについて

第 2 回 平成 17 年 7 月 27 日（水）13：00～14：00

場 所 中会議室

議事次第

1. ホームページの著作権表示について

23. 情報公開委員会

委員：伊井 春樹	館長
松村 雄二	副館長
宮村 貞一	管理部長
鈴木 淳	文学資源研究系研究主幹
武井 協三	文学形成研究系研究主幹
谷川 恵一	複合領域研究系研究主幹
丑木 幸男	アーカイブズ研究系研究主幹
大高 洋司	調査収集事業部長
安永 尚志	電子情報事業部長
中村 康夫	普及・連携活動事業部長
高橋 実	情報資料サービス事業部副部長
三上 有丈	管理部総務課長
上原 正宜	管理部財務課長（平成 17 年 12 月 31 日まで）
大西由喜男	管理部財務課長（平成 18 年 1 月 1 日から）
長坂 悦朗	管理部事業課長

24. セクシャル・ハラスメント防止委員会(平成 17 年 9 月から人権委員会に改正)

委員：(平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 8 月 31 日)

伊井 春樹	館長
松村 雄二	副館長
斎藤真麻理	文学資源研究系助教授
山下 則子	文学形成研究系教授
高橋 実	アーカイブズ研究系教授
宮村 貞一	管理部長
三上 有丈	管理部総務課長

(平成 17 年 9 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)

伊井 春樹	館長
松村 雄二	副館長
宮村 貞一	管理部長
山田 直子	文学資源研究系助手
山下 則子	文学形成研究系教授
安永 尚志	複合領域研究系教授
北村 啓子	複合領域研究系助手
青木 睦	アーカイブズ研究系助教授
三上 有丈	管理部総務課長

25. 衛生委員会

委員：(平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 8 月 31 日)

三上 有丈	管理部総務課長
丸山 道彦	産業医
黒瀧 裕	管理部総務課課長補佐
古瀬 武彦	管理部総務課人事係長
山下 則子	文学形成研究系教授
江戸 英雄	文学形成研究系助手
佐藤 崇	管理部総務課総務係員

(平成 17 年 9 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)

三上 有丈	管理部総務課長
丸山 道彦	産業医
黒瀧 裕	管理部総務課課長補佐
古瀬 武彦	管理部総務課人事係長
山田 直子	文学資源研究系助手

江戸 英雄 文学形成研究系助手
佐藤 崇 管理部総務課総務係員

平成 17 年度開催状況：

第 1 回 平成 17 年 4 月 20 日（水）14：00～14：30

場 所 中会議室

議事次第

1. 衛生委員会の今年度の活動について
2. その他

第 2 回 平成 17 年 6 月 15 日（水）14：00～15：00

場 所 中会議室

議事次第

1. 構内清掃における安全衛生対策について
2. その他

第 3 回 平成 17 年 8 月 17 日（水）14：00～14：30

場 所 中会議室

議事次第

1. 定期健康診断の実施について
2. その他

第 4 回 平成 17 年 10 月 12 日（水）14：00～14：30

場 所 中会議室

議事次第

1. 定期健康診断の実施について
2. 館内の照度測定結果について

第 5 回 平成 17 年 12 月 14 日（水）14：00～14：30

場 所 中会議室

議事次第

1. 定期健康診断の実施結果について
2. アスベスト使用状況について
3. その他

26. 人事委員会

委員：伊井 春樹 館長
松村 雄二 副館長
宮村 貞一 管理部長

鈴木 淳	文学資源研究系研究主幹
武井 協三	文学形成研究系研究主幹
谷川 恵一	複合領域研究系研究主幹
丑木 幸男	アーカイブズ研究系研究主幹
三上 有丈	管理部総務課長

27. 移転委員会（平成17年9月から移転実行委員会に改正）

委員：（平成17年4月1日～平成17年8月31日）

山田 直子	文学資源研究系助手
山下 則子	文学形成研究系教授
原 正一郎	複合領域研究系助教授
青木 睦	アーカイブズ研究系助教授
小川 剛生	調査収集事業部助教授
落合 博志	普及・連携活動事業部助教授
増田 均	管理部事業課システム管理係長
中村スミ子	管理部事業課情報サービス係長
三上 有丈	管理部総務課長
上原 正宜	管理部財務課長
長坂 悦朗	管理部事業課長

（平成17年9月1日～平成18年3月31日）

陳 捷	文学資源研究系助教授
久保木秀夫	文学資源研究系助手
山下 則子	文学形成研究系教授
江戸 英雄	文学形成研究系助手
野本 忠司	複合領域研究系助教授
山田 哲好	アーカイブズ研究系助教授
加藤 聖文	アーカイブズ研究系助手
三上 有丈	管理部総務課長
上原 正宜	管理部財務課長（平成17年12月31日まで）
大西由喜男	管理部財務課長（平成18年1月1日から）
長坂 悦朗	管理部事業課長

平成17年度開催状況：

第1回 平成17年6月28日（火）15：00～17：00

場 所 大会議室B

議事次第

1. 審議事項

- (1) 移転の時期及びタイムスケジュールについて (2) 移転・調達及び各室の利用方法等の

確認について (3) 宿泊棟の整備年度について (4) 総合研究棟整備工事費調整に伴う優先順位について (5) ワーキンググループの設置について

2. 報告事項

- (1) 食堂棟（交流棟Ⅱ）の位置について (2) 展示室の東文研との調整結果報告 (3) 1、2階レイアウトの一部修正について (4) 2機構課長連絡会（施設・会計部会）の現状報告

第2回 平成17年10月25日（火）15：00～17：00

場 所 大会議室B

議事次第

1. 移転実行委員会規程について
2. 副委員長の選出について
3. ランニングコスト試算について
4. 3機関試案の検討
5. 交流棟Ⅰ、Ⅱについて（宿泊施設、食堂等）
6. その他

第3回 平成17年12月22日（木）13：30～16：00

場 所 中会議室

議事次第

1. 総合研究棟各室什器レイアウトについて
2. 第5回立川移転二機構課長連絡会の報告について
3. その他

第4回 平成18年1月19日（木）13：30～

場 所 大会議室B

議事次第

1. 立川移転3研究機関の共通調整項目について
(1) 車両規制について (2) 警備・受付について
2. 移転に伴う費用の要求について（平成19年度概算要求）
3. 各階リフレッシュルーム廊下側壁等の設置取りやめについて
4. 中央管理室（共有部分）の使用方法について
5. その他

第5回 平成18年2月22日（水）13：30～

場 所 大会議室B

議事次第

1. 第7回立川移転2機構事務連絡会（H18.1.24開催）について
2. 3研究機構機関共通調整項目について
(1) 警備・受付について (2) サイン計画について
3. 移転跡地（戸越）の処分について

4. その他

- (1) 移転実行委員会規程の修正について
- (2) リフレッシュルームの間仕切り変更について
- (3) 立川キャンパスの現状について

28. 将来計画委員会

委員：松村 雄二	副館長
宮村 貞一	管理部長
谷川 恵一	複合領域研究系研究主幹
田淵旬美子	文学資源研究系教授
小川 剛生	文学資源研究系助教授
入口 敦志	文学資源研究系助手
山下 則子	文学形成研究系教授
加藤 昌嘉	文学形成研究系助教授
高橋 実	アーカイブズ研究系教授
大友 一雄	アーカイブズ研究系教授
三上 有丈	管理部総務課長
上原 正宜	管理部財務課長（平成 17 年 12 月 31 日まで）
大西由喜男	管理部財務課長（平成 18 年 1 月 1 日から）
長坂 悦朗	管理部事業課長

平成 17 年度開催状況：

第 1 回 平成 17 年 10 月 18 日（火）10：00～11：30

場 所 中会議室

議事次第

1. 委員長の選出
2. 今後の検討事項について

第 2 回 平成 17 年 11 月 29 日（火）10：00～12：20

場 所 中会議室

議事次第

1. 国書総目録について
2. 研究のカテゴリについて

第 3 回 平成 17 年 12 月 20 日（火）10：00～12：10

場 所 中会議室

議事次第

1. 研究のカテゴリについて
2. 国書総目録について
3. 平成 18 年度年度計画について

29. 国際交流委員会

委員：宮村 貞一	管理部長
谷川 恵一	複合領域研究系研究主幹
田淵句美子	文学資源研究系教授
陳 捷	文学資源研究系助教授
入口 敦志	文学資源研究系助手
中村 康夫	文学形成研究系教授
伊藤 鉄也	文学形成研究系助教授
高橋 実	アーカイブズ研究系教授
安藤 正人	アーカイブズ研究系教授
渡辺 浩一	アーカイブズ研究系助教授
前川佳遠理	アーカイブズ研究系助手
三上 有丈	管理部総務課長
上原 正宜	管理部財務課長（平成 17 年 12 月 31 日まで）
大西由喜男	管理部財務課長（平成 18 年 1 月 1 日から）
長坂 悦朗	管理部事業課長

平成 17 年度開催状況：

第 1 回 平成 17 年 9 月 7 日（水）14：00～

場 所 中会議室

議事次第

1. 国際交流委員会のあり方について
2. その他

第 2 回 平成 17 年 10 月 13 日（木）15：30～

場 所 中会議室

議事次第

1. 委員長の選出
2. 国文学研究資料館ソウル研究交流集会
3. 第 1 回 日仏学術交流集会について
4. その他

第 3 回 平成 17 年 11 月 24 日（木）15：30～

場 所 中会議室

議事次第

1. 協議事項
 - (1) 交流協定書の雛形について
 - (2) 交流協定の進捗状況について
 - ① 浙江工商大学日本語言文化学院との交流協定書の調印について
 - ② イタリア 5 大学との交流協定についての事前交渉について
 - ③ 北京日本学術研究センター、ライデン大学との進め方について
 - (3)

平成 18 年度の海外派遣計画について (4) その他

2. 報告事項

- (1) 国際日本文学研究集会委員会と第 29 回国際日本文学研究集会開催報告 (2) インド国際日本文学研究集会について (3) 外部資金の申請について (国際交流基金 (知的交流会議助成)) (4) その他

第 4 回 平成 17 年 12 月 15 日 (木) 13 : 00 ~

場 所 中会議室

議事次第

1. 報告事項

- (1) イタリア 5 大学との交流協定について (2) 北京日本学術研究センター、ライデン大学との協定書・覚書について (3) 国文研ニュースの配信について (4) インド国際日本文学研究集会について (5) 「東アジアを中心としたアーカイブズ資源研究プロジェクト」における国際研究会の経過と予定 (6) 国際交流基金知的交流プログラム助成申請書について

2. 協議事項

- (1) 浙江工商大学日本語文化学院との交流協定に関する覚書及び派遣について (2) コレージュ・ド・フランスへの派遣について (3) 国際日本文学研究集会の委員について (4) 第 2 回日仏学術交流集会について (5) 国際学会 (AAS、ICJS、EAS) 参加について

第 5 回 平成 18 年 1 月 25 日 (水) 13 : 30 ~

場 所 中会議室

議事次第

1. 議題

- (1) ライデン大学との交流協定 (案) について (2) イタリア 5 大学との交流協定について (3) インド国際日本文学研究集会について (4) コレージュ・ド・フランスへの派遣について (5) 国際日本文学研究集会について (6) 留学生の受入について (7) 国文学研究資料館主催の海外における研究集会について (8) その他

2. 報告事項

- (1) 浙江工商大学日本語文化学院との交流協定に関する派遣について (2) 第 3 回日仏学術交流集会について (3) その他

第 6 回 平成 18 年 2 月 22 日 (木) 13 : 30 ~

場 所 中会議室

議事次第

1. イタリア 5 大学との交流協定について
2. 平成 18 年度連携研究計画「文化の往還」について
3. コレージュ・ド・フランスへの派遣について
4. インド国際日本文学研究集会について
5. リスボン大学からの照会について

6. バージニア大学との群書類従に関する共同研究について
7. 浙江工商大学日本語文化学院との覚書について
8. その他

第7回 平成18年3月29日(水) 13:30～

場 所 中会議室

議事次第

1. 議事

- (1) コレージュ・ド・フランスへの派遣について (2) 北京日本学研究中心との交流協定について (3) 来日中の日本文学研究者との懇談会について (4) その他

2. 報告事項

- (1) イタリア3大学との交流協定について (2) 浙江工商大学日本語文化学院との覚書について (3) その他

30. 研究戦略委員会

委員：大高 洋司	文学資源研究系教授
小川 剛生	文学資源研究系助教授
斎藤真麻理	文学資源研究系助教授
山下 則子	文学形成研究系教授
安永 尚志	複合領域研究系教授
青田 寿美	複合領域研究系助教授
高橋 実	アーカイブズ研究系教授
安藤 正人	アーカイブズ研究系教授
青木 睦	アーカイブズ研究系助教授
五島 敏芳	アーカイブズ研究系助手
三上 有丈	管理部総務課長
上原 正宜	管理部財務課長(平成17年12月31日まで)
大西由喜男	管理部財務課長(平成18年1月1日から)

平成17年度開催状況：

第1回 平成17年9月1日(木) 14:00～

場 所 中会議室

議事次第

1. 平成18年度科学研究費補助金の申請について
2. 科学研究費補助金説明会(5機関共催)の開催について
3. その他

第2回 平成17年9月14日(水) 10:00～

場 所 中会議室

議事次第

1. 研究戦略委員会のあり方について
2. 委員長の選出について
3. 科学研究費補助金について

第3回 平成17年9月29日(木) 13:30～

場 所 中会議室

議事次第

1. 議事
 - (1) 科学研究費補助金基盤研究(S)研究テーマについて (2) 科学研究費補助金基盤研究(A)、(B)計画提出予定の現況について (3) その他
2. 報告事項
 - (1) 平成18年度科学研究費補助金説明会の実施報告について (2) 平成17年度科学研究費補助金内部監査の実施について (3) その他

第4回 平成17年10月13日(木) 10:30～

場 所 中会議室

議事次第

1. 平成18年度科学研究費補助金申請予定状況について
2. その他

第5回 平成17年11月22日(火) 10:30～

場 所 中会議室

議事次第

1. 議事
 - (1) 人間文化研究機構連携研究「文化資源の高度活用」の研究計画について (2) その他
2. 報告事項
 - (1) 平成18年度科学研究費補助金の申請について (2) 外部資金の申請について (3) その他

第6回 平成18年2月13日(月) 16:00～

場 所 中会議室

議事次第

1. 人間文化研究機構連携研究の研究計画調書について
2. 平成18年度科学研究費補助金特別研究員奨励費について
3. その他

1. 運営会議委員（五十音順）

（館外）

揖斐 高	成蹊大学文学部教授
沖森 卓也	立教大学文学部日本文学科教授
雲英 末雄	早稲田大学第一文学部総合人文学科教授
五味 文彦	東京大学大学院人文社会系研究科教授
榊原 悟	群馬県立女子大学文学部美学美術史学科教授（美学美術史学科長）
高埜 利彦	学習院大学文学部教授
十川 信介	学習院大学文学部教授
名和 修	陽明文庫 文庫長
平野由紀子	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科教授（人間文化研究科長）
藤井 讓治	京都大学大学院文学研究科教授（文学研究科長）
森 正人	熊本大学文学部教授（文学部長）

（館内）

安藤 正人	アーカイブズ研究系教授
丑木 幸男	アーカイブズ研究系研究主幹
大高 洋司	文学資源研究系教授
鈴木 淳	文学資源研究系研究主幹
高橋 実	アーカイブズ研究系教授
武井 協三	文学形成研究系研究主幹
谷川 恵一	複合領域研究系研究主幹
中村 康夫	文学形成研究系教授
松村 雄二	副館長
安永 尚志	複合領域研究系教授

2. 幹部職員一覧

館長	伊井 春樹
副館長	松村 雄二
管理部長	宮村 貞一
総務課長	三上 有丈
財務課長	上原 正宜（平成17年12月31日まで）

	大西由喜男 (平成 18 年 1 月 1 日から)
事業課長	長坂 悦朗
文学資源研究系研究主幹	鈴木 淳
文学形成研究系研究主幹	武井 協三
複合領域研究系研究主幹	谷川 恵一
アーカイブズ研究系研究主幹	丑木 幸男

1. 外部評価

外部評価委員会を設置し、平成 17 年度外部評価報告書を以下のとおりまとめた。

今西 裕一郎

黒田 日出男

国文学研究資料館における事業活動のあり方

小島 孝之

ハルトムート・ロータモンド

(前文)

国文学研究資料館は、平成 16 年度の法人化により、人間文化研究機構の一機関として新たな出発をするにあたり、根本的な組織改革を行い、4 研究系と 4 事業部という組織体制で臨むこととなった。そこで、当外部評価委員会においては、法人化後に新たにスタートした研究系とプロジェクト研究に焦点を絞った検証・評価を、昨年度に行ったところである。したがって、本年度は、昨年度評価の対象外とした事業活動の面を採り上げ、普及・連携活動事業及び情報資料サービス事業について検証・評価を行った。

今回、対象とした事業活動はおおむね法人化以前から実施されてきたものの継続であり、概して適切に運営されていると認められたが、本資料館が全国の国文学を中心とする関連分野の研究者の共同利用機関とされていることに鑑み、その実施内容が学会等の研究者コミュニティの要望に充分応えるものとなっているか、併せて、社会人等の一般的な利用者に対して配慮をしたものとなっているか、といった側面を重視して、評価を行った。

以下、個別事業について総括的な評価意見を述べることとする。

I 普及・連携活動事業部

1 連続講演について

・「古今集から新古今集へ」

事業の実施体制はおおむね妥当であり、適切に整備されていると思われる。

事業の計画に照らして、実施内容はおおむね見合ったものとなっている。具体的には、講師の松野陽一氏は国文研の前館長であり、事業の目的・趣旨等を熟知しているので、講演者として誠に適任であった。なお、計画段階では各回の具体的なテーマは未定であったが、実施結果には参加者数をはじめとして、見るべきものがあったと評価できる。

事業内容は、平成 17 年が古今集撰集 1100 年、新古今集撰集 800 年の節目に当たる記念すべき年であり、学会等からもこれらに因んだ事業が期待されていたので、そうした要望に適切に答えていると言える。なお、「自己点検・評価報告書(抜粋)」では、「一般向けでありながら学問的内容の講演」

と報告されているが、研究者コミュニティ（学会など）の要望と同時に一般の要望にどのくらい応えているかの検証として、受講者の内訳における、研究者・学生と一般との比率はどうであったかについての、データ開示が望まれる。

社会貢献という観点からは、講演各回の参加者数から、社会に対して十分貢献したと言える。講演内容が一般的であることに加え、「古今集撰集 1100 年・新古今集撰集 800 年」に因んだ企画は、本資料館が協力した記念切手の発行などと併せて、社会貢献として有意義であった。ただし、応募者の半数近くにまで抽選で受講者を絞らねばならないという点は、大きな反省点であろう。受講希望者の大部分を収容できることが望ましい。施設の現状の結果であるならば、立川移転後には解決されることが望まれる。

2 シンポジウムについて

・「展開する伊勢物語－注釈と絵巻－」

事業の実施体制は、おおむね妥当であると思われ、事業の計画に照らして、鉄心斎文庫の展示と連動した実施内容は適切であった。

シンポジウム「展開する伊勢物語－注釈と絵巻－」は、特別展示「鉄心斎文庫の伊勢物語コレクション」との連携によって行われたものであり、活動自体としては高く評価される。プロジェクト研究との関係では、「平安文学における場面生成研究」との相関性が想定できるものの、特には関連付けられなかったようであるが、基幹研究「文学資源の総合研究」の1「王朝文学の流布と継承」の目的には合致しており、その成果発表として適当な内容を有すると言える。

研究者コミュニティとの関係では、当日シンポジウムに参加したフロアの研究者からのコメント等の、誌上参加が行われてもよかったのではないかと。併催の特別展示との関係付けた発言は、山本講師以外には特にみられなかったようであるが、展示との関連性を何らかの形で示せばよかったと思われる。しかし、展示「鉄心斎文庫の伊勢物語コレクション」、シンポジウム「展開する伊勢物語－注釈と絵巻－」及び「鉄心斎文庫の伊勢物語コレクション－図版と解題－」を含む冊子の刊行が有機的に連関し、研究者コミュニティの要望によく応えているということが出来る。

シンポジウムの参加者が177名ということは、この種の催しとしてはたいへん成功したと評価できよう。ただし、参加者が、研究者であったのか、一般社会人であったのかという区別が明確でなく、どのような貢献であったかに不分明なところが残る。

また、鉄心斎文庫の伊勢物語コレクション展示がポピュラーな題材で一般向けであるのに対して、「注釈と絵巻」という副題のシンポジウムは専門的である。しかし、連動する展示が社会貢献を果たしていれば、それに伴いシンポジウムは研究者コミュニティ（学会など）向けであっても差し支えないと考える。展示は一般社会人と関心を共有できる内容、シンポジウムは研究者コミュニティを対象として学問的水準を維持する、という方針で差し支えないと考えられる。

3 共同フォーラムについて

・「和歌と貴族の世界」

実施体制は適切に整備されている。人間文化研究機構内での国立歴史民俗博物館との連携という初めての試みであったので、実施には多くの困難が伴ったものと想像されるが、この成功を今後活かしてほしい。

内容は、貴族社会と和歌という政治と文学に関わるテーマで、歴史研究者と文学研究者の報告と討議が行われたもので、歴史と文学の双方向からの学際研究として適切であった。ただし、「満席にて

きなかった」のは、「PRが必ずしも十分でなかった」事のみが原因と言えるか。会場「東商ホール」の問題もあるのではないか。あるいは一般の参加者が少なかったのではないか。これらの点についての反省が必要であろう。

事業内容とプロジェクト研究等との関連は必ずしも明確ではなく、個々の研究者としての立場からの報告や討議であったと思われるが、このような連携事業の場合は、個別のプロジェクトとの関連は、間接的でもよいのではないか。

研究者コミュニティの要望との関連は、平成17年が「古今集1100年」「新古今集800年」という和歌に注目が集まった年であるので、表記のテーマで歴博・国文研の共同フォーラムが開催されたことは、研究者コミュニティの要望にも応えるものであったといえる。

社会貢献という点では、296名の参加者があったことは一定の評価に値するが、歴博、国文研双方からの共同フォーラムであれば、さらに多くの参加者を集め得たのではないか。また、フォーラムでの成果が参加者の範囲のみにとどまることは聊か残念に思われる。当日の報告・討議が文書の形で報告されなかったのは遺憾であり、報告書等の作成にも、歴博との連携が強く望まれる。

また、歴史と文学はそれぞれ一般社会にアピールするコンテンツを有する分野であるが、両者の単なる並列では、一般市民の知的要望に応える内容とは必ずしもならない。研究者コミュニティの要望に応えつつ、同時に社会貢献として一般市民の要望に応えることを目標とするならば、企画に際して相当な準備が求められるであろう。

4 展示について

- ・特別展示「鉄心斎文庫の伊勢物語コレクション」
- ・連携展示「うたのちから—古今集・新古今集の世界—」
- ・通常展示「和書のさまざま—書誌学入門—」

事業の実施体制は、おおむね妥当である。

3つの展示とも、計画に見合った適切な実施内容となっているが、特に、特別展示は鉄心斎文庫、連携展示では国立歴史民俗博物館の、いずれも貴重な資料の公開が実現し、計画に見合う内容になっている。

事業内容は、学会との連携を中心にしているというべく、プロジェクト研究等の研究成果の発表とは、必ずしも対応していない。プロジェクト研究がまだ緒に着いたばかりであったことを考えればやむを得ない側面はあるが、今後、そうした面での関連付けが増加することが期待される。ただし、展示に際して制作された図録『うたのちから 古今集・新古今集の世界』などは、プロジェクト研究「学芸書としての中世類題和歌集の研究」等、複数のプロジェクト研究の成果発表にもなっている。

学会との連携を中心に進められたので、研究者コミュニティの要望には一定程度応えたと言ってよいと思われる。ただし、今後、今回のような特別のエポックのない時に、どのように学会との関係を保持するのにかについては、工夫がいるであろう。

なお、特別展示、連携展示に合わせて刊行された解説図録は、新資料の紹介をも含んで、研究者の要望に応える、有意義なものになっている。

『伊勢物語』や『古今集』、『新古今集』など、専門的であると同時にポピュラーな典籍を対象とすることによって、一般社会の知的要求にも応える内容を備えており、それぞれの展示が多くの参加者を得たことは、社会貢献として評価できる。ただし、展示室の温度・湿度調節・広さ等、現状は良好でなく、貴重書を展示できない等の問題点は、立川移転を機に解決が図られるよう望みたい。

5 研修会について

- ・アーカイブズカレッジ
- ・日本古典籍講習会

事業の実施体制は、適切に整備されており、事業の実施内容は、いずれも計画に照らして適切に実施されている。

事業内容はいずれも、社会的ニーズに応じていると言える。就中、純粋な研究者と一般社会人との中間に位置する、図書館職員等の要望に適切に応じている点は貴重である。ただし、内容的に考えて、一度に多人数を受け入れることが困難であることから、毎年継続的に行われることが必要であり、参加者に対するアンケートを実施し、結果を次年度に活かす工夫を行っていることは高く評価できよう。単なる研究機関ではない国文学研究資料館のユニークな事業として、質量ともに一層の充実が望まれる。

アーカイブズカレッジは教育普及の面で、社会的ニーズに応え、日本古典籍講習会は現役研究者・司書のリカレッジとして大いに社会貢献を果たしているとともに、知識と情報の共有化によるネットワークの構築に貢献していると評価できる。

6 国際研究集会・国際シンポジウムについて

- ・国際日本文学研究集会
- ・ソウル研究交流集会

事業の実施体制は、おおむね適切に整備されている。

事業の計画に照らして、実施内容は見合ったものとなっており、適正に実施されたといえる。

プロジェクト研究との関連性はあまり見られないが、国際研究集会・国際シンポジウムの目的・趣旨からいって、これはやむを得ない。むしろ、日本文学研究の国際的啓蒙活動・国際ネットワークの構築としての意義を評価すべきである。

事業内容に関しては、日本文学の研究を現代にふさわしい開かれたものに変えてゆかねばならないという研究者コミュニティの抱く問題意識に応えるものであり、その成果を上げていると評価できる。また、国際日本文学研究集会において平成17年度から始まったポスター・セッションは、理系学会では当たり前のこととはいえ、文学研究の学会では斬新な試みであり、外国人研究者、若手研究者にとっては貴重な機会の提供として、研究者コミュニティの要望に応じている。

国際シンポジウムについては、その内容・成果を公表する方法が確立されておらず、単独の冊子を作成することが適切か否かは慎重な判断が必要であろうが、紀要なり、年報に概略を記載するなどの方法を考えてもよいのではないか。

国際日本文学研究集会は、内外の若手研究者にその発表の場を提供することで、若手研究者養成における大きな貢献を果たしており、また、国際シンポジウムは、日本文学研究の国際的なネットワーク創りに大きな役割を果たしている。また、国際日本文学研究集会は、外国人若手研究者の支援という意味で、国際的な社会貢献をも果たしているといえる。

なお、国際日本文学研究集会の開催時期、開催曜日については、参加者の便宜という観点から、再考の余地があると思われる。とくに、後者については、土、日曜開催によって、参加者の増加が期待されるであろう。

II 情報資料サービス事業部

1 図書資料の購入・受贈等について

実施体制として、情報図書館委員会を設置し、図書館事業と電子情報事業の連携を図る体制を整備したことは、事業相互の連携により、効率的実施に向けて寄与すると考えられ、高く評価できる。平成 17 年度は、7 件 974 点の寄贈と、4 件 189 点の寄託資料の受入を決定し、予算による資料購入の欠を補っている。この点は、予算による限界を超えて実施内容の充実に向けて努めているという意味において、立派な成果を上げていると言える。ただし、その内訳を見ると、多くが当館に縁故のある研究者による寄贈・寄託であり、より広い範囲から積極的に受け入れ、資料の充実に向けて努めるべきであろう。

資料購入に当てられる正規予算は約 17,000 千円であり、国立大学等の他の機関と較べれば、決して少ない額ではないが、海外の日本文学研究機関等の予算額に較べると格段に小額である。大型の受贈を受け入れたり、「源氏文庫」充実を視野に入れれば、不十分と言わざるを得ない。館の責任とは言い難いが、予算の獲得は至上命題であると言わなくてはならない。

学生を含む研究者コミュニティが当館に期待するものは多岐にわたり、そのすべてにこたえることはなかなか難しい問題だと思われる。偏り無く、体系的に基礎的な資料を整備することが求められるという観点からは、当館の蒐集資料は充実しており、十分に研究者コミュニティの要望にこたえていると言える。しかし、他方で「源氏文庫」等の充実に向けて努めると、高価な資料を購入する必要も生じ、基礎的な資料の充実と背反する事態も生じるかと思われる。情報図書館委員会等を活用して、適切な運用がなされるよう期待したい。

購入・寄贈・寄託資料等は、話題性のある資料を展示するなどの方法で、随時公開されており、社会人等の一般的な利用者（ユーザー）の要望には適宜配慮がなされていると言えるが、ユーザーの要望を汲み上げ、集書等にも反映するシステムをきちんと構築しておく必要があるのではなかろうか。

2 図書資料の受入・整理について

図書資料の受入・整理と目録作成は継続的事业として、おおむね順調な実施体制を維持している。また、内容・件数ともに計画に照らして、実施内容は適切である。

マイクロ資料・和古書目録データベースの作成は、当館の必須事業であり、遅滞無く進められることが望まれる。入力のためのアルバイト謝金の不足によって遅滞することは極力避けたいところである。館内の予算配分比率としては、おおむね妥当であると思われるので、予算的に充分とは言えないことが根本的な原因であるとすれば、当初予算の配分を増やすことも検討課題になろう。

研究者コミュニティの要望は、受入・整理が迅速に行われ、可能な限り早く資料を利用できるようになることであるから、現状はおおむね要望にこたえていると評価できる。

他方、社会人等の一般的なユーザーの要望は、必ずしもマイクロ資料・和古書の利用にあるとは言えないが、当館の第一義的使命は国内外の研究者の利用に供することにあるのであるから、まずは、研究者コミュニティの要望を優先すべきである。その上で、アンケート・要望書等を生かし一般的なユーザーが何を求めているのかを怠りなく把握する必要があるであろう。

3 資料の保存について

資料それぞれの性格に応じた実施体制が整備されており、おおむね適切な体制となっている。

平成 17 年度の、本格的保存措置が 5000 点余、簡易保存措置が 3600 点余、それぞれ実施されており、計画に見合って遂行されている。

古典籍原本の修復・補修等は特殊な技術を必要とするものであるから、そうした技術を持つ人間の養成システムを館内部に構築することも、将来的には必要になるのではないかと思量される。現在の事業経費では、そこまで手が回らないというのが実情かもしれないが、将来を見越して方策を検討することも考えられよう。

4 利用者サービスについて

おおむね適切に整備されているが、遠隔地に居住する研究者コミュニティからは、マイクロ資料利用の利便性について、地域的な較差がある旨の異議が提出されている。現在の館の体制は、そうした要望に対して適切に対応しているとは言えない面がある。

ILL（図書館間相互協力）への加入と実践は、大きな利用者サービスの向上であるが、上記の要望には充分対応しきれないのではなかろうか。

閲覧時間・複写受付時間の延長、セルフコピーの導入は、研究者コミュニティのみならず、一般的ユーザーの要望にも対応できる内容であり、高く評価できる。ただし、来館利用者減少の事実と ILL の導入による影響との因果関係については、引き続き統計を取り、調査をした上で傾向を見極めてはどうか。

5 古典籍総合目録事業について

「国書基本データベース（著作編）」と「古典籍総合目録データベース」の公開は、学生・研究者にかなり活用されており、高く評価できる。特に、利用登録制度を廃止したことは、外部からのアクセスを格段に容易にし、利便性が大幅に高まっており、この点は、特に高く評価できる。

所蔵資料の画像配信も実験公開中であるが、利用者へのサービス拡大として、今後継続されることが、大いに期待されるところである。

（総括）

本年度の外部評価の対象とした、「普及・連携活動事業」及び「情報資料サービス事業」の活動は、根本的な予算不足や、若干の問題点を持ちつつも、全体として、よく体制は整備されており、業務は順調に実施されている。研究者コミュニティ及び一般的利用者への対応も、改善・拡大されており、充分社会的ニーズに応える形で遂行されていると言える。本外部評価で指摘した問題点は、一朝一夕で解決できる性質の問題ではない事柄が多いので、直ちに解決することは難しいかもしれないが、今後の館の努力に俟ちたいと考える。

【概要】

今年度は、1期生2名の学位論文の予備審査を5月と12月の2度行い、2名とも合格したが、学位論文を提出するに至らなかった。1期生に1名の退学があった。3期生の受入（5名入学）を行い、合計10名の教育研究を行った。2期生、3期生の中間報告論文研究発表会を行い、中間報告論文の審査を行った。全員が合格と判定した。

来年度の入学者選抜を行い、4期生4名が合格した。

担当教員2名の辞任に伴って、交代する新担当教員の選出を行った。また、教育研究体制の強化のために、次年度に向けて新たに2名の担当教員枠の追加を行い、19科目21名の体制を整えた。

今年度、文化科学研究科による「魅力ある大学院教育」イニシアティブ事業が開始され、当専攻も重要な役割を分担し、国内外への学生派遣事業、学生支援相談員事業などに積極的に参加した。

1. 日本文学研究専攻の運営

専攻長の下に専攻委員会を置き、専攻の全般にわたる運営を行っている。専攻委員会の下に専門委員会である教育研究委員会及び入学者選抜委員会を置き、専門的な事項について審議している。さらに、今年度は大学機関別認証評価のための準備が開始され、加えて中教審答申に対応するための中教審答申対応ワーキンググループを設置した、(来年度は評価委員会名称変更予定。)一方、対外的な活動として、総合研究大学院大学本部の教育研究評議会、評価担当教員会議、次年度特定教育研究経費の概算要求委員会に、専攻長が委員として参加した。文化科学研究科では専攻長会議が重要視されているため、毎月定例で開催され、重要な案件の審議に当ることとしている。また、専攻長会議とは別に「魅力ある大学院教育」イニシアティブ委員会が発足し、専攻長と専任委員を、文化科学研究科レフェリージャーナル総研大「文化科学研究」編集委員会には、編集委員をそれぞれ派遣している。

今年度は担当教員の入替えを行った。松野陽一教授の退任に伴い、後任として伊井春樹教授が書物メディア論を担当した。また、今年度末で辞任する松村雄二教授及び丑木幸男教授の後任として、それぞれ加藤昌嘉助教授（作品享受論）、高橋実教授（資源集積論）を迎えることとした。さらに、青田寿美助教授（後期出版文化論）、齋藤真麻理助教授（文学思想論（中世以前））の2名を設置審枠外教員として来年度から迎えることとした。

なお、担当教員の選考については、専攻内に設置した人事委員会で厳正な審査を行い、専攻委員会で決定、専攻長会議で承認されている。

今年度は、文化科学研究科特定教育研究経費事業の第2年次であるが、文部科学省に申請したイニシアティブ事業が採択され、事業の1元的運用を図ることとした。

このイニシアティブ事業や昨年度からの特別講義及び学術交流協定による千葉大学大学院からの学生の受入れ、研究生の受入れなど、他専攻や他機関との教育研究の交流を深め、連携強化を図っている。

2. 総合研究大学院大学及び文化科学研究科における活動

(1) 総合研究大学院大学教育研究評議会

今年度は定例で3回開催され、委員として専攻長が出席した。

(2) 文化科学研究科教授会

今年度は定例で2回開催され、構成員である担当教員が出席した。

(3) 文化科学研究科専攻長会議

毎月定例的に開催された（通算18回）。テレビ会議方式と対面方式の両方により開催され、教育研究、人事、予算、規則、評価等について協議した。

(4) 「魅力ある大学院教育」イニシアティブ委員会

文化科学研究科として申請した「魅力ある大学院教育」イニシアティブが採択されたことに伴い、今年度途中から発足した。専攻長及び中村康夫教授を委員とした。5回開催され、事業の運営等について協議した。また、学生支援相談員制度を発足し、学生を交えた合同の委員会を開催した。

(5) 評価担当教員会議

今年度は3回開催された。専攻長を委員として派遣し、平成19年度に予定している大学機関別認証評価に向けての準備を開始した。また、自己点検評価委員会を兼ねている。年度途中で、中教審答申が出され、急遽その対応にもあたった。

(6) 総研大テラーメイド教育システム「広い視野を有する博士育成のためのテラーメイド教育システムの構築」

来年度の概算要求・特別教育研究経費のための作業委員会に安永教授が参加した。e-Learning方式による遠隔教育について、協議を行った。

(7) 総研大国際シンポジウム「アジア地域における学術文化交流ネットワーク」

平成18年1月20日～23日に葉山キャンパスで開催された。

安藤正人アーカイブズ研究系教授を実施委員として派遣した。

3. 教育研究指導

教育研究指導分野として4分野をたて、授業科目を19科目置き、19名（平成18年度より、21名の予定）の担当教員によって日々の教育研究指導を行った。学生数は1期生2名、2期生3名、3期生5名の合計10名である。千葉大学大学院との学術交流協定により、特別研究学生1名の受入れを実施し、また研究生を1名受入れている。

前学期、後学期を通じて13科目が開講され、単位認定を行った。受講した学生は、所定単位を取得済の1期生を除き全員である。中間報告論文研究発表会は、12月に3日間に渡って開催し、外部からの参加者も得た。発表会では講評を行った。その結果の中間報告論文は審査の結果、全員が合格した。

1期生については、学位論文予備審査に出願し、2回を通じて2名とも合格した。ただし、標準修了年限内の学位論文の提出には至っていない。

主任指導教員は、学生の全面的な教育研究指導の責任者となり、2名の副指導教員と共にきめ細やかな教育研究指導を行っている。主任指導教員によっては、学生の学位論文の課題に応じて、適宜セミナー形式などの研究会を開催、また、基盤機関の研究会に参加させるなど、より高度な専門教育研究指導を行っている。

一方、特記すべき点は学生の国内外への派遣事業を活発化したことである。イニシアティブ事業

としての国内外派遣事業の制度化による効果は極めて大きいものであった。例えば、フィールドワークとしての調査研究では、国内延べ11名、海外延べ4名を派遣した、また、国内の学会などでの研究発表への派遣は延べ1名、海外での国際会議への参加は延べ2名を派遣した。なお、国文学研究資料館が開催した日本文学国際共同研究集会（ICJS: International Collaboration for Japanese literary Studies Conference）では、会議運営にあたった。

総研大葉山本部が開く事業や学生セミナーにも積極的に参加し、前学期学生セミナーでは2期生3名が実行委員として参加し、3期生5名も出席した。

文化科学研究科の連携を深め、学生の幅広いかつより深い教育研究を進めるために、掛川市において、2日間に渡る学生合同セミナーを開催し、教員名7名、学生8名が参加した。なお、当専攻からは2名の学生がセミナーの企画運営にあたった。

4. 専攻委員会

専攻委員会は定例として、今年度は14回開催した。日本文学研究専攻の全ての運営に全責任を負っている。

例えば、学生の入学試験と受入れ、研究生の審査と受入れ、講義科目とシラバス及び講義計画の制定と実施、単位の認定、学位論文審査、奨学金などの授受、教育研究指導、論文指導、担当教員人事、諸制度の見直しと新規の導入、様々な規約の制定、多様な学事の実施、葉山本部への対応、研究科への対応、教育研究プロジェクトの審査と評価など、極めて多事に渡る。

教育研究に多忙を極めることが常態となってきた。上例に見るように、教育研究指導よりも学事処理に追われる状況である。

専攻委員会の活動は、下記専門委員会に重なるので、そちらに譲る。

5. 教育研究委員会の活動

教育研究委員会は7名の委員から構成している。日常的な学生の教育研究を指導し、推進するため、合計9回委員会を開催した。

(1) 講義

年度当初に、科目の確定とシラバスのとりまとめ、時間割の制定、履修計画などを決定し、前学期、後学期の講義を実施した（全13科目）。厳正な成績評価を行い、単位認定を行った。学生が教育研究指導を受ける科目時間割の設定を行い、また最終的な成績評価を決定し、専攻委員会において学生の取得単位を確定した。

(2) 中間報告論文

12月に3日間にわたり、中間報告論文研究発表会を公開形式で開催した。2期生及び3期生8名、並びに研究生1名の研究発表を行った。活発な質疑、教員からの講評・指導があり、極めて効果の高いものとなった。学生は発表に基づき中間報告論文をとりまとめ、2月に提出した。指導教員（3名）による審査を経て、合否判定を行った。最終的に専攻委員会で全員合格を判定した。

(3) 学位論文予備審査

当専攻では最初の学位論文予備審査を実施した。1期生2名の学位論文の予備審査の申請があり、それぞれ予備審査委員会（3名で構成）を設け、学位論文（予備）の審査を行った。その結果を受けて合否判定を行い、1名を合格、1名を不合格と判定した。不合格者については、半期遅れて改めて予備審査申請があり、新たに予備審査委員会を構成して審査を行った。合否判定を

行い、合格とした。

いずれも、今期学位論文を提出するに至らなかった。

(4) 審査基準の見直し

専攻設立時に定めた学位論文の審査基準について、見直しを行った。予備審査の基準並びに本審査の基準を明確にし、規程として整備した。これにより、学位論文審査に関わる教育研究指導体制が確立した。

(5) 研究生の受入れ

千葉大学大学院との学術交流協定による特別研究学生の受入れに伴い、教育研究指導体制を確定した。また、研究生の受入れに伴い、正規生と同じ教育研究指導を行うこととし、実施した。

(6) 総研大及び研究科からの付託事項の審議

総研大本部及び研究科から付託された多くの事項について審議を行った。1つは長期履修制度である。当専攻では制度導入には反対しないが、実施時期及び体制についての検討が必要と判断した。

遠隔教育が重視されていることに伴い、当専攻では e-Learning「書誌学」のシステム開発研究が進み、次年度には実証実験が可能である。

一方、遠隔入試制度の検討を行った。入学者選抜委員会での課題であるが、教育研究の方法などについても検討した。

総研大で進められている自己点検評価や大学機関別認証評価、また、中央教育審議会でも求められている新たな教育研究のための多くの課題に対し、他専攻に先駆けて検討を行った。単位認定、学位論文予備審査及び本審査の基準、全般的な教育基準の明確化に向けて検討を進めている。なお、別途中教審答申ワーキンググループ（来年度より評価委員会に名称変更）によって、専門的かつ総合的に検討することとしている。

(7) 教育研究資源の充実

基本および専門図書及び学術誌の選定を学生と共に行い、これらの充実に努めた。

6. 入学者選抜委員会の活動

入学者選抜委員会は7名の委員によって構成している。国内外から広く学生を募集するための方策の検討を行い、可能な限り実施した。また、次年度の入学者選抜を行った。合計7回開催した。

(1) 募集要項の作成と配布

年度当初に、平成18年度の入学者選抜について、募集要項を作成し、配布と同時に多面的な広報を行った。

(2) 広報活動

①ポスターを作成した。全国の大学・公共図書館378件に掲示の依頼をした。

②チラシを5,000枚作成した。これを国文学研究資料館の各種行事参加者への配布し、案内した。また、教員が参加する学会などで配布した。

③日本文学関連雑誌への広告の掲載を行った。

・「国文学-解釈と鑑賞-」（至文堂）2005年9月号 表紙裏1頁大

・「国文学-解釈と教材の研究-」（學燈社）2005年11月号 1頁大

(3) 大学院入試説明会

10月28日に、国文学研究資料館において大学院入学試験説明会を実施した。残念ながら参加

者は0名であった。極めて深刻な事態と受止めている。緊急に反省会を開き、原因分析を行い、今後の対策を協議した。反省点として、ホームページでの案内ページが下層過ぎてアクセスが難しいこと、アドミッション・ポリシーの取組みが弱いことなどがあげられた。

(4) 入学者選抜試験の実施

平成18年度の入学者選抜試験を実施した。7名の出願者があった。第1次試験は論文審査であるが、1名の出願者につき、3名の論文審査委員により審査を行い、5名を合格と判定した。

ついで、第2次試験は4名の合格者（1名辞退）について面接試験を行った。7名の面接官による5段階評価を行い、4名を合格と判定した。その結果は文化科学研究科専攻長会議で承認された。なお、2名の入学が決定したが、定員割れのため、極めて深刻な事態となっている。

(5) 研究生の受入れ

研究生の受入れ申請について、今年度は留学生2名の申請があった。面接による入学者選抜を課すこととし、1名を合格、1名を不合格と判定した。受け入れた研究生の受入期間は当初6ヶ月の予定であったが、希望により3ヶ月延長することとなった。

(6) 遠隔入試制度の検討

海外からの応募者が入学者選抜試験を受けやすくする方法及び制度を検討している。当専攻は、国際化と社会人の受入れを今後の重要課題と考えており、遠隔地に居ながら入学試験を受けられる工夫をする必要がある。次年度実施に向けて課題の整理を行った。

7. 外部委員会などへの対応

主な外部委員会などへの対応として、専攻内に協議する場を随時設けた。とくに大学機関別認証評価及び中教審答申対応については、課題の重要性から来年度から専門委員会を置くこととした。活動をまとめる。

(1) イニシアティブ関連

研究科のイニシアティブ委員会と連携して、諸課題の検討と実施に当った。学生支援相談員制度の発足に伴い、4名の学生を受入れた。また、学生合同セミナーの企画及び推進に積極的に協力した。

(2) 電子ジャーナル委員会

第2号の総研大「文化科学研究」の発刊に向け、田淵委員を中心として、原稿の収集及び各レフェリーによる査読などを実施した。学生・教員各1名からの投稿があり、採択された。

(3) 中教審答申対応ワーキンググループ

平成19年度に予定している総研大の大学機関別認証評価に向けて、専攻独自課題の検討を開始した。今年度途中で、中教審答申および設置審改革案が出され、急遽その対応を協議する場として「中教審答申対応WG」（構成員7名）を設けた。教員制度改革への対応、人材育成目的の明確化、教育研究指導の明確化（シラバスや講義計画）、アドミッション・ポリシーの設定などの検討を重ねている。課題の重要性考え、来年度からは専攻内に新たな専門委員会として「評価委員会」を設置し、継続で対応にあたっていくこととした。

8. 広報活動

今年度も広報活動を重視して、入学者選抜委員会を中心に多くの取組みを行ったが、入学志願者7名であった。次年度以降抜本的な取組みの改革が必要である。

9. 教育研究プロジェクト

今年度は、3 課題の教育研究プロジェクトを立てた。主任指導教員を研究代表者とする教育研究プロジェクト（第 1 種プロジェクト）2 課題と、専攻長を研究代表者とする教育研究プロジェクト（第 2 種プロジェクト）1 課題である。担当教員と学生は、全員いずれかの研究プロジェクトに重複しないで所属している。それぞれ研究会を開催し、調査研究に学生を同伴させ、当専攻の文献資料の現場を通してその扱いなどを指導した。

(1) 第 1 種プロジェクト

「文学資源活用のための書誌学的方法修得に関する研究」（研究代表者 鈴木 淳教授）

「平安・鎌倉期の詩歌を中心とする文化史的研究」（研究代表者 田淵句美子教授）

(2) 第 2 種プロジェクト

「日本文学研究における創生的教育研究方式に関する研究」（研究代表者 安永尚志専攻長）

とくに、第 2 種プロジェクトでは、文化科学研究科の国内学生派遣関連事業に位置づけて、特別講義を 2 回開催し、他専攻からも出席を得た。特別講義制度はたいへん高い教育研究効果があり、次年度以降は当専攻独自の事業と位置づけることとした。

(3) 第 1 回特別講義（8 月 8 日開催）

①「日本演劇について」ボナヴェンチャー・ルベルティ客員教授

②「ゴードン・スミスの日本発見」伊井春樹教授（館長）

(4) 第 2 回特別講義（1 月 17 日開催）

①「古典和歌における模倣」松村雄二教授

②「日本近現代文芸と古典評価－『日本的なるもの』をめぐって」鈴木貞美教授（国際日本研究専攻）

10. 特定教育研究経費による研究事業活動

研究科の特定教育研究経費による研究事業は、引続き実施されているが、年度途中で申請した「魅力ある大学院教育」イニシアティブ事業の採択により、再編・総合化することとなった。専攻長を研究分担者とし、担当教員全員がこれに参加している。

引継ぐ事業の 1 つに e-learning「書誌学」の開発研究がある。専攻内に特別チームを置き、教材およびコンテンツに係る研究開発を担当し、今年度基礎編を概ね完成させ、実用化の準備を整えた。

他にも査読付きジャーナル誌総研大「文化科学研究」第 2 号の編集にも参加している。発行準備も進み、当専攻の学生・教員各 1 名の投稿論文が採択され、教育研究に高い成果を得ている。

なお、イニシアティブ事業は以下にまとめる。

11. イニシアティブ事業活動

文化科学研究科は「総合日本文化実践教育プログラム」（平成 17 年度文部科学省研究拠点形成費等補助金（若手研究者養成費）「魅力ある大学院教育」イニシアティブ採択）事業を進めている。今年度より 2 ヶ年の事業計画である。

本プログラムは、「専攻を置く大学共同利用機関の高度な研究環境を横断的に活用し、所属専攻において学問諸分野に係る先導的で国際的に活躍できる高度な専門的知識・能力の修得を前提に、所属専攻の枠を超えて日本文化研究を中核とする関連諸分野と有機的に連動できる創造性豊かで優れた専門応用能力を涵養させる博士後期課程実践教育を行う」こととしている。

本プログラムによる当専攻の事業実績は以下のとおりである。本プログラムの主旨に添って、学際的で先導的な文化科学研究を推進し、新しい日本文化研究へのチャレンジ精神を備えた創造性豊かな若手研究者の育成に多大の効果を上げた。

(1) 文化科学研究科の合同学生セミナー

海外に派遣した学生の研究発表、調査研究などの研究成果をまとめるための学生合同セミナーが12月12、13日の両日開催され、教員7名、学生8名が参加した。企画委員長を専攻長が担当し、学生企画委員会（学生8名、教員2名、事務1名）を組織し、運営にあたった。

(2) 国内学生派遣関連事業

国内の原典資料の調査研究（フィールドワーク）、学会参加や研究発表に学生延べ人を派遣した。

(3) 海外学生派遣関連事業

海外の研究機関、資料所蔵機関などへの調査研究（フィールドワーク）を進め、また国際会議への参加、研究発表に学生を派遣した。調査研究11件、国際学会等参加2件、研究発表2件の延べ7名が事業に参加した。

(4) 学生支援相談員事業

4名の学生を学生支援相談員として採用し、個々の役割分担を決、事業推進を図った。

(5) 学生企画事業（Student Initiative Project）

学生が中心となって進める専攻を跨ぐ事業に5名の学生が参加した。なお、事業の計画には教員も参加している。

(6) 遠隔教育事業

特定教育研究経費で始めたe-Learning「書誌学」は、今年度は実用化の目途を得た。さらに、研究科を跨ぐ遠隔教育のシステム環境を構築するため、機材の導入を含め検討を進めた。

12. 千葉大学との教育研究連携活動

平成16年度、協定を結んだ千葉大学大学院社会文化科学研究科は、平成18年度から「人文社会科学研究科」に改組、名称変更となり、対応して手続きを行った。協定に基づき、単位互換を主とする連携（研究指導を含む）を進め、今年度は特別研究学生1名を受入れた。

13. 施設、設備の整備

日本文学研究専攻は、独立した教育研究棟を備え、専用の給湯設備、男女別手洗を設備し、さらに学生個々に学習スペースを確保している。施設、設備の充実を図るとともに、来年度入学者に備えた。しかし、学生増加のため、学生スペースの確保が課題となってきている。

一方、建物の老朽化と独立棟のため、環境改善として防寒対策を行った。また、セキュリティ対策、防犯対策、防災対策などを行った。

14. 予算

総研大からの専攻運営費ですべてを賄っており、外部資金などは得ていない。

【概要】

平成 17 年度は新たに国際交流委員会を組織して、国際交流活動の活性化を図るとともに、初めて海外において研究集会を開催するなど、積極的に活動を行った。

また、新たに浙江工商大学日本語言文化学院（中華人民共和国）、ヴェネツィア国立大学「力・フォスカリ」、国立ナポリ東洋大学「オリエンターレ」及び国立アジア・アフリカ研究所（いずれもイタリア共和国）と学術交流協定を締結した。

国際交流関係の実施に当たっては、運営費交付金の他、科学研究費補助金や国際交流基金、日本学術振興会等の助成を受けて行っている。平成 17 年度実施の主要項目を列挙すれば、以下のとおりである。なお、科学研究費補助金その他による海外出張は全部で 98 件。

①日本文学国際共同研究研究集会の開催（フィレンツェ 平成 17 年 9 月 21 日～ 25 日）

②ソウル研究交流集会の開催（国際交流基金ソウル日本文化センター 平成 17 年 11 月 6 日）

③第 28 回国際日本文学研究集会の開催（平成 17 年 11 月 17 日～ 18 日）

④コレージュ・ド・フランスとの学術交流協定による活動

コレージュ・ド・フランスより短期研究員（助教授）3 名の来館（パリ東洋言語文化研究所ミッシェル・ヴェイエヤール・バロン助教授、パリ第七大学坂井セシル教授、パリ第七大学クレール＝アキコ・ブリッセ助教授）

当館よりコレージュ・ド・フランスへ田渕句美子文学資源研究系教授を派遣し、4 回の研究授業を担当

⑤客員外国人研究員の招聘 3 名

韓国国家記録院学藝研究士 金慶南

リーズ大学名誉講師 エリス・ティニオス

ヴェネツィア大学教授 ボナベンチャー・ルペルティ

⑥国外機関からの招聘による職員派遣、アメリカハーバード大学燕京図書館プロジェクトへの参加 1 名（「ハーバード燕京図書館における貴重図書の再検討」当館鈴木淳教授）

⑦科学研究費補助金による招聘研究員 1 名（イタリアナポリ東洋大学）

⑧外国人研究員の受け入れ 7 名

ブリティッシュコロンビア大学（カナダ）教授 ジョシュア・モストウ

韓国国家記録院学藝研究士 李炅龍

アダムミツケヴィッチ大学（ポーランド）教授 エステラ・ゼロムスカ

韓国国家記録院学藝研究士 金慶南

コロンビア大学大学院（アメリカ） マイケル・エメリック

ライデン大学（オランダ）教授 ボート・ウリエム

バークレイ大学大学院（アメリカ） バレット・ホイッシュ

⑨在海外日本文学関連資料の共同調査 21 件

韓国国立中央図書館、パリ東洋語図書館、中国国家図書館、北京大学図書館、ナポリ国立図書館、ヴェネツィア東洋図書館、ドイツ プルヴェラー家、イギリス リーズ大学、アメリカ フリーア美術館、大連大学、中華人民大学档案学院、台湾大学、台湾文献館、ロンドン大学、ナポリ国立図書館、韓国国史編纂委員会、トルコ アクデニス大学、マレーシア国立文書館、ケンブリッジ大学、米国議会図書館

(調査打ち合わせ等は除く)

⑩国際会議参加発表 5 件

安藤正人 8 月 オーストリア国際アーカイブズ会議

鈴木 淳 11 月 韓国国際学術大会

伊藤鉄也 11 月 第一回インド国際日本文学研究集会

⑪ケンブリッジ大学コーニツキ教授作成在欧州日本古典籍所在データベースのデータ作成と本館ホームページによる公開協力

1. 総務課

(1) 意思決定システムについて

当館の業務運営の更なる改善を目指し、館長のリーダーシップの下、各種会議・委員会を再編し、構成員を各研究系・事業部からの代表制を改め、各々の能力に応じた適材適所で再配置した上で、委員会での審議・検討結果の主幹・部長会議への報告を義務化して情報の共有化と、相互の意思疎通を図った。

(2) 自己点検・評価について

①評価の実施体制

評価についての結果を次年度の年度計画に適切に反映させるため、自己評価委員会を評価委員会へと再編し、研究活動については、評価の客観性を保つために外部評価を実施した。

また、外部委員を構成員とする委員会において、委員会が出された意見を汲み上げ、当館の運営の改善に努めた。

②評価関連情報の公表

自己点検・評価結果については、運営・活動の透明性及び情報公開の観点から、外部評価と併せて、ホームページ上に公開した。

(3) 広報について

①広報体制を強化するため機能を見直し、ホームページ委員会を統合し、新たなメンバーで広報委員会を組織した。

②一般社会に当館を分かりやすく理解してもらう目的で、新たに季刊「国文学研究資料館ニュース」を刊行し、展示会・イベント等で幅広く配布した。

③当館の活動状況を網羅的に集約し、広く周知するため、新たに「年報」を刊行した。

④当館が実施している研究プロジェクト等を広く紹介するため、小冊子「国文学研究資料館の研究活動」を刊行し、幅広く配布した。

⑤ホームページについては、利用者に分かりやすいようにコンテンツを整理した。

(4) 事務の合理化について

別フロアにあった総務課の分室を統合し、事務の簡素化・効率化を図るとともに、引き続き電子メールや館内専用ホームページの活用により、通知・周知等の迅速な情報提供やペーパーレス化に努めた。

(5) 職員の適正配置について

①事務職員・技術職員の選考・採用・人事交流状況

平成 17 年度においては関東甲信越地区国立大学法人等職員採用試験の合格者名簿により当館において選考を実施し、平成 17 年 4 月 1 日で 1 名、平成 17 年 8 月 1 日付で 1 名、平成 17 年 10 月 1 日付で 1 名を採用した。また、人事の活性化を図るため、平成 17 年 4 月 1 日付では、

東京大学 3 名、東京学芸大学 2 名、東京工業大学 1 名の人事交流を行った。

(6) 公募制及び任期制の導入について

若手研究教育職員の流動性を高め、研究教育職員の活性化を図るため、平成 16 年 4 月 1 日から助手について任期制を導入しており、平成 17 年 4 月 1 日は公募により 2 名の任期制助手を採用した。

また、研究機関研究員については、外部から広く公募する体制に変更した。

(7) 外部資金による任期付き採用について

科学研究費補助金による研究支援者を平成 17 年 4 月 1 日に 4 名、4 月 7 日に 1 名、7 月 1 日に 1 名、7 月 13 日に 1 名、9 月 1 日に 1 名採用した（任期はいずれも平成 18 年 3 月 15 日）。

(8) 職員の研修について

当館の主催としては、職員のメンタルヘルスの向上を図るための「メンタルヘルス研修会」、及び職員の業務意識の向上等を図るため「職務啓発研修（国文学研究資料館のこれまでとこれからを考える）」を外部講師を活用して実施した。

また、職員の資質の向上を図るため、放送大学の授業を活用した職場研修として前期 3 名、後期 3 名の者を受講させたほか、職務に対する理解を深めるとともに職員の業務遂行能力の向上及び当館での業務だけでは得難い幅広い知識の取得をさせることにより優秀な人材を育成するため、国立大学協会等外部機関が主催する研修会へも積極的に参加をさせた。

(9) 超過勤務の管理について

引き続き、月 2 回開催の管理部連絡会議において、超過勤務縮減のため各課・系の業務内容、分担等の見直し及び業務の効率化について繰り返し要請を行った。

また、毎週水曜日を「定時退館日」、金曜日を「早期退館日」と定め、職員に周知することにより超過勤務の縮減を図るとともに、引き続き超過勤務を行う場合は、各職員が超過勤務の理由及び必要時間数を担当課長に申告し、担当課長が緊急性等を判断し、場合によっては時間数の短縮又は通常時間内に処理するよう指導の上、真に必要な時間数を命ずることとした。

(10) 職員の福利厚生について

年 1 回の健康診断の実施のほか、引き続き職員の間人ドック受診時の費用を一部負担するなど、職員の健康の保持増進に努めた。

また、レクリエーション事業として、バドミントン大会、ボウリング大会、ウノ大会、映画鑑賞を行ったことにより職員間の交流及び心身のリフレッシュを図るなど福利厚生の充実に努めた。

(11) 研究プロジェクトについて

研究経費については、館長のリーダーシップにより、当初配分予算を 1 割留保し、各プロジェクトの進捗状況の調査及び研究代表者からのヒアリングを実施の上、館長の判断により必要なプロジェクトに重点的に再配分した。

また、研究プロジェクト発表会を月 1 回開催し、各プロジェクトの進捗状況を定期的に公表するとともに事務連絡の場を設け、教員、事務双方とも情報の共有化を図った。

(12) 研究連携について

機構内及び国内外の機関等との共同研究、共同事業、国際交流、国際協力等の事項を担当するために設置した研究連携委員会の機能を整理し、国際交流・国際協力等の事項を担当させる国際交流委員会を設置した。他機関との連携状況は以下のとおり。

①人間文化研究機構内での連携研究等

機構内を構成する各機関の連携協力を推進するため実施する機構内連携研究等に対し、当館においても積極的に取り組んだ。

a) 機構連携研究

先行していた連携研究「日本とユーラシアの交流に関する総合的研究」に即した三本柱の一つ「文化の往還」は、平成 17 年度は予備研究となったが、平成 18 年度の本研究への準備を始めるとともに、新たに開始された研究テーマ「文化資源の高度活用」に即した課題「日本実業史博物館」資料の高度活用」を申請し、採択された。

b) 機構資源共有化

機構研究資源共有化検討委員会及びその下部委員会に当館教員から委員を選出し、事業の準備を進めた。

c) 機構連携展示

平成 17 年が古今和歌集奏覧 1100 年、新古今和歌集奏覧 800 年に当たるため、国立歴史民俗博物館と共催した連携展示「うたのちから—古今集・新古今集の世界—」を当館、歴博の両会場で下記のとおり実施した。また、平成 17 年 11 月 3 日には歴博との共同フォーラム「和歌と貴族の世界」を東商ホールにて開催した。

開催期間 歴博 平成 17 年 10 月 18 日～11 月 27 日

当館 平成 17 年 10 月 28 日～11 月 18 日

展示図録は、各々機関分を作成し、展示期間中に各会場で販売した。

②人間文化研究機構外との連携研究等

- ・立命館大学総合情報センターとの相互協力協定の締結。
- ・大阪大学大学院文学研究科との研究連携協定の締結。

③科学研究費における連携状況（海外を含む）

下記の科学研究費補助金における研究活動は、研究目的上、国内・海外双方の研究者との連携が不可欠であるため、有意義で効果的な連携研究が行われている。

- ・基盤研究（S）「国際コラボレーションによる日本文学研究資料情報の組織化と発信」 研究代表者：安永 尚志 研究期間：平成 13～17 年度
- ・基盤研究（A）「在欧日本古典籍に関する日仏伊共同学術調査」 研究代表者：谷川 恵一 研究期間：平成 15～18 年度

機構内の研究連携は、機構内各機関の連携を高め、単一機関では成し遂げられない学際性のある研究テーマを掲げ、高い研究成果を得ようとする試みであるとともに、社会に対する研究成果の普及を推進するものでもあり、当館においても引き続き積極的に取り組んで行くこととしている。

(13) 研究者の交流について

①客員教員

平成 16 年度から、当館の研究プロジェクトへの参加を条件として採用を行うこととし、各研究系内において適任者を選考の上、研究主幹が研究業績等を記入した選考調書を作成し、その選考調書に基づき、研究系会議において選考及び客員教授及び客員助教授の称号付与について協議の上、主幹・部長会議の議を経て、館長が決定することとした。

- ・平成 17 年度の採用状況 教授 2 人、助教授 7 人
(所属別 国立大学 3 人、公立大学 1 人、私立大学 4 人、その他 1 人)
- ・平成 18 年度の採用計画 教授 2 人、助教授 3 人

(所属別 国立大学 1 人、私立大学 4 人)

②外国人研究員

毎年外国人研究員を招へいし、共同研究を行っている。平成 17 年度においては、文学資源研究系、アーカイブズ研究系に各 1 名ずつ配置し、平成 16 年度から継続の複合領域研究系の 1 名を加えた 3 名の外国人研究員が中心となりそれぞれの共同研究を実施した。

③研究機関研究員

高度な研究能力を持つ若手研究者の養成及び研究プロジェクト等の推進を図るため、客員教員に準じた選考方法により各研究系に 1 名を配置している。

④日本学術振興会特別研究員

優れた若手研究者に、研究の場等を提供し、研究に専念する機会を与えるため、当館においても積極的に受入れることとし、平成 17 年度においては、新たに 2 名を加え平成 16 年度からの継続 3 名を含め 5 名に対し、研究指導を行った。

なお、平成 18 年度については、既に 1 名の内定を受けているところである。

その他、学术交流協定を締結しているコレージュ・ド・フランス日本学高等研究所との間におけるに研究者交流や、私費、外部資金及び他機関等からの経費負担による研究者（外来研究員制度）についても積極的に受け入れており、平成 17 年度は 7 名（内外国人 7 名）を外来研究員として受け入れた。

また、当館教員の海外派遣については、別表のとおり今年は 98 名を海外の調査・研究及び国際学会等へ派遣した。

(14) 外部資金について

当館の研究内容は、受託研究、民間等との共同研究等にはなじみにくい分野であり、競争的研究資金の獲得としては、科学研究費補助金、財団等が募集する研究助成金、その他の奨学寄附金を積極的に受け入れている。

平成 17 年度からは新たに研究戦略委員会を組織し、外部資金獲得のための手段を講ずるとともに、引き続き競争的研究資金の募集情報を館内専用のホームページに掲載するなど、広く職員に周知を図った結果、科学研究費補助金については、平成 18 年度申請件数が 23 件と前年度申請時に比べ 3 件増加した。

また、前年度は実績のなかった財団等の研究助成金については、7 件申請し、2 件が採択され、2 件が審査中であるなど、外部資金の積極的な獲得への取り組みが根付け始めた。

平成 17 年度外部資金受入状況

①科学研究費補助金

28 件 直接経費 110,700 千円、間接経費 20,070 千円 合計 130,770 千円

この他に、当館が経理する分として、

研究成果公開促進費（データベース） 3 件 25,900 千円

特別研究員奨励費 5 件 4,500 千円

があり、総額は 161,170 千円となっている。

②財団等の研究助成金 4 件 3,215 千円

③奨学寄附金 1 件 300 千円

科学研究費補助金については、近年その用途について問題となることが多いため、教員、事務

職員等を対象に近隣大学に呼びかけて、5 機関主催の説明会を日本学術振興会から講師を招いて開催するなど、ルールへの理解と遵守及びルール違反・不正使用のペナルティなどについて周知を図った。

(15) リサーチアシスタントについて

若手研究者育成の観点から、当館においてもリサーチアシスタント (RA) を採用することとし、各研究系に 3 人を上限とする枠を設け配置している。

採用に当たっては、各研究系が実施する研究プロジェクト (共同研究型含む) への参加補助を条件としており、選考手続きは、各研究系内で適任者を検討し、学生 (候補者) 及び所属大学の主任指導教授から内諾を得て、研究主幹が選考調書を作成し、研究系会議及び主幹・部長会議の議を経て、館長が決定している。

・平成 17 年度の採用状況 12 人

(所属別 国立大学 7 人、私立大学 5 人)

(研究分野別 国文学系 9 人、歴史学系 3 人)

うち、当館が基盤機関である総合研究大学院大学文化科学研究科日本文学研究専攻の学生は 6 名。

・平成 18 年度の採用計画 12 人

(所属別 国立大学 7 人、私立大学 5 人)

(研究分野別 国文学系 9 人、歴史学系 3 人)

うち、総研大の学生が 7 名。

研究プロジェクトに参画させ、研究活動の効果的推進、研究体制の充実を図る一方で、若手研究者の研究能力の育成を目指しており、任用期間終了時には受入教員から RA 研究 指導報告書を、RA 本人から RA 研究成果報告書の提出を義務付けている。

(16) 国際貢献について

学術交流を協定した前述の 2 機関との交流の他、当館が後援するインド・ニューデリーで開催の日本文学研究集会に、教員を派遣した。

インドでは現在、日本文学の近現代の作家・作品が研究の対象となっているが、本研究集会において当館教員が講演を行ったことにより、インドの研究者及び学生に対し日本の古典文学への興味を引いたことは大きな成果であり、このような交流を続けていくことで、インドにおける日本文学研究の基礎を築く一端を当館が将来担っていくことと考えられる。

(17) 知的財産関係について

法人化を契機に、今まで以上に知的財産の保護、円滑な管理及び専門家の養成などが、急務となっており、知的財産委員会を組織した。

また、人間文化研究機構における知的財産管理室へ 2 名の職員を併任させるとともに、知的財産セミナーやシンポジウムへ積極的に参加させるなど、当館における知的財産の創造、保護及び活用に対する意識の向上に努めた。

著作物については、その保護や権利を巡り、裁判にまで及ぶ事例も報道されており、今後とも当館の研究の特性に配慮しながら、知的財産の基本理念に沿った体制整備が引き続き必要であると思われる。

以上、中期目標・中期計画・年度計画に定めた目標の達成に向け、館長のリーダーシップの下、組織体制の整備、人事の配置、研究教育面への支援などの業務運営を適正かつ効率的・効果的に行うこ

とを通して、法人化後の円滑な研究教育活動等の促進に向けて取り組みを行ったところである。

今後とも、引き続き自ら点検・評価を行いながら、目的意識を持った業務の質の向上及び事務の効率化・合理化を目指し、更なる機能的な組織整備に努めていく。

2. 財務関係

(1) 平成 17 年度予算について

平成 17 年度事業予算については、前年度事業予算より 41,495 千円増の 626,599 千円が予算示達された。

予算増の要因は、移転予定地である立川の土地借料が、前年度の 4 ヶ月分から 1 年分へと期間が長くなることにより 47,132 千円増となったため、実質的には前年度より 5,637 千円減の予算であった。

その予算の範囲内で、館内において各事業や各研究プロジェクト等の業務計画を策定し、館内予算の配分を行った。

また、各予算を見直すため、当初に配分した予算の 10 %分を留保し、館長のリーダーシップのための経費枠を新たに設け、館長を中心に館内予算のヒアリングを行い、重点的な予算配分を行った。

(2) 立川市への移転について

立川移転に関する諸課題については、昨年度より引き続き移転委員会にて検討を行った。移転委員会は 9 月に当館における委員会の再編に伴い移転実行委員会としてその役割を継承している。

重要課題である当館の移転時期については、平成 20 年 2 月を目標とすることとした。これは、総合研究棟 I 期工事が竣工する予定の平成 19 年 9 月末以降、貴重資料に害を及ぼす湿気除去の期間を考慮しつつ、なるべく遊休施設とならないようにするためであり、この時期を基準に全体のスケジュールを計画することになった。

次に、各課各研究系において現有什器の調査を行い、現状の建物使用状況の把握をするとともに、総合研究棟における各室の使用用途について施設マネジメントの観点からも検討を行った。具体的には共同利用研究室については各研究系を超えて相互に利用可能なスペースとして使用することができることとした。

対外的には移転二機構（人間文化研究機構、情報・システム研究機構）並びに三機関（国文学研究資料館、国立極地研究所、統計数理研究所）において構成される「立川移転二機構事務連絡会」及び「課長連絡会」において移転三機関の共通事項について協議・調整を行った。連絡会での検討事項等については、当館移転実行委員会に諮り、当館としての意見を取りまとめた上で提案を行っている。

立川移転に伴う移転経費及びその後の建物維持費等経費の増加は深刻な問題であるため、予算の確保に努めるとともに、極力経費を抑制する移転計画案となるよう検討中である。

移転予定地の土地購入については、平成 17 年度に 10,285.71 m²を購入し、累計購入面積は 15,935.42 m²となり、残る面積は 46,514.65 m²となった。

また、主に国文学研究資料館が専有する予定の総合研究棟 I 期工事は平成 19 年 9 月末に竣工予定であるが、主に国立極地研究所及び統計数理研究所が専有予定の総合研究棟 II 期工事は平成 18 年 1 月に着工したばかりで、竣工は平成 21 年 3 月の予定であるため、移転時期も本館とは 1 年以上の開きが生じ、共通部分の維持管理費負担の考え方は、今後の難しい検討課題である。